

第40回

医学情報サービス研究大会
抄録集



令和7年8月23日(土)

~8月24日(日)

札幌医科大学 記念ホール

第 40 回医学情報サービス研究大会の開催にあたって

実行委員長 平 紀子

皆様、医学情報サービス研究大会（以下、MIS）第 40 回札幌大会へようこそ！

2025 年 8 月の大会は、第 3 回 1986 年 6 月、第 17 回 2000 年 7 月、および第 32 回 2015 年 7 月につづく 4 回目の札幌での開催です。札幌での開催は 10 年振りとなりますが、このたびの開催決定に至る道のりは長く、様々なことを検討するために時間を要しました。2023 年に MIS 幹事会から札幌での開催について打診がありました。武田事務局長を中心に前回開催の主たるメンバーで当初実行委員会の構成を検討しましたが、図書館職員定員数の削減、業務委託化など当時の図書館運営状況とは大きく異なり、実行委員長の選任が難しく、大学図書館を取り巻く環境の変化と現状の課題をあらためて考えさせられました。職場環境の変化、学外業務を控えざるを得ない状況は決して北海道だけに限られたものではありませんが、時代の趨勢の中でその厳しさが深刻化していることを痛感しました。札幌医科大学の会場を仮予約しましたが、一方では開催に向けて動くことが出来ず、混沌とした日々がつづきました。スケジュールの焦りもあり開催を断念せざるを得ない状況を幹事会代表の方に連絡した際、これまでの開催運営に拘らずミニマムな開催を行ってほしいとのコメントをいただきました。誰かが指揮をとらないと MIS の開催が滞ってしまうと考え、現役を退いている自ら委員長を引き受けることとし、現役で活躍している札幌医科大学の松本さんに副実行委員長を、北海道大学の坂本さんに副事務局長をお引き受けいただきました。10 年前の実行委員の皆さんにメールで協力の呼びかけを行い、開催に向けての準備がスタートしていきました。また、札幌医科大学の福原さんに作成していただいたロゴは、雪の妖精シマエナガに決まり幸運の使者そのものと感じています。

実行委員会は、2024 年 1 月に第 1 回をオンラインで開催し実行委員メンバーの顔合わせを行い、第 2 回は 5 月に札幌医科大学においてハイブリッドで開催し、大会スケジュール、役割分担を決めました。また、参加申し込み、連絡は Peatix により行う、グッズは種類を減らし、当日は現金の収受を行わない、さらに抄録は電子版のみにするなど、ミニマムな開催を合い言葉に準備を進めました。実行委員の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。順風満帆にはいかない面もありましたが、10 年振りに道内各地から参集した 20 名の実行委員の皆さんの協力を得て、その情熱に支えられ 2025 年の MIS 第 40 回札幌大会の成功に向けて開催準備を進めて参りました。

医学情報サービス研究大会の意義「Learning from each other!」に込められた目的に沿って歩みをつづけるための一助となればと考えています。face to face のコミュニケーションから大きな力が生まれる可能性があります。私たち実行委員一同、この 2 日間の「出会い」と「学び」の場から、皆様にとって新しい発見が生まれることを切に願っています。

目次

実行委員長挨拶	1
会期中のお願い	3
会場へのアクセス・ランチマップ	4
会場案内	5
プログラム	6
タイムテーブル	9
口頭発表	
A 研究支援・専門性の発揮	10
B 公共サービス・社会的活動	15
C 分析・調査・データマネジメント	20
ポスターセッション	24
プロダクトエキシビション	31
参加企業連絡先	44
発表要領	
口頭発表要領	46
ポスター発表要領	47
プロダクトレビュー要領	48
Learning from each other! 医学情報サービス研究大会をより充実させるために	49
実行委員紹介	54
ロゴについて・グッズ紹介	58
大会関連データ	
医学情報サービス研究大会の組織と運営	60
医学情報サービス研究会会則	61
医学情報サービス研究大会の足跡	63
第 41 回医学情報サービス研究大会のご案内	66
大会主催のお願い	67

会期中のお願い

■基本情報

1. 名札の着用について

大会期間中（懇親会を含む）は、必ず名札をご着用ください。終了後は記念としてお持ち帰りいただけます。

2. 名札の色分けについて

参加者のうち、実行委員は「ピンク色（赤ヒモ）」、企業参加者は「水色（白ヒモ）」、一般参加者は「緑色（白ヒモ）」の名札を着用しています。交流やお問い合わせの際にお役立てください。

3. 昼食について

昼食は、2階ホールをご利用いただけます。

また、近隣の飲食店をまとめたランチマップも用意しておりますので、ご活用ください。

4. 会場の美化・ごみの処理について

会場の美化にご協力をお願いいたします。ごみは所定のゴミ箱へお捨てください。

5. 参加証明書の取得について

会場内に掲示しているQRコードより取得いただけます。

6. アンケート

会場内のQRコードよりご回答ください。大会終了後は、公式サイトからも回答可能です。

■禁止・制限事項

1. 敷地内での喫煙は禁止です。

2. 録音・撮影・音の出る行為はご遠慮ください。

ホール、ポスターセッション及び企業ブースでの携帯電話での通話や、機器による録音・撮影はお控えください。

図書館内は、利用者が写らない範囲であれば、写真撮影を認めます。共有範囲はご自身の所属内としてください。

■必ずご確認ください

1. 貴重品はご自身で管理をお願いいたします。実行委員会では責任を負いかねます。

大きなお荷物はクロークにお預けください。

2. 非常口や避難経路は、会場内の案内表示をご確認のうえ、あらかじめご自身でご確認ください。

3. 暑さ対策として、こまめな水分補給を心がけてください。体調が優れない場合は、近くの実行委員にお声がけください。

会場へのアクセス・ランチマップ



電車の場合

JR千歳線「エアポート」
「新千歳空港」から「札幌」へ（～40分）



バスの場合

北都交通・北海道中央バス（リムジンバス）
「新千歳空港」から「札幌駅前」へ（～1時間）



地下鉄南北線（真駒内行）
「さっぽろ」から「大通」へ（1分）



地下鉄東西線（宮の沢行）
「大通」から「西18丁目」へ（4分）



「西18丁目」駅、6番出口から徒歩3分



札医大周辺ランチマップ

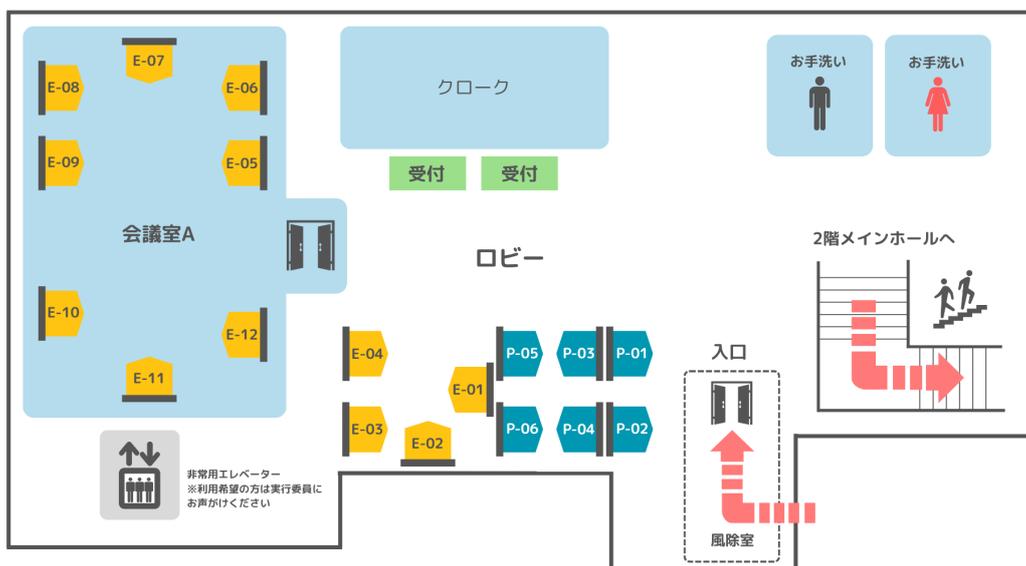
おすすめの飲食店をまとめました！ランチタイムにご活用ください。



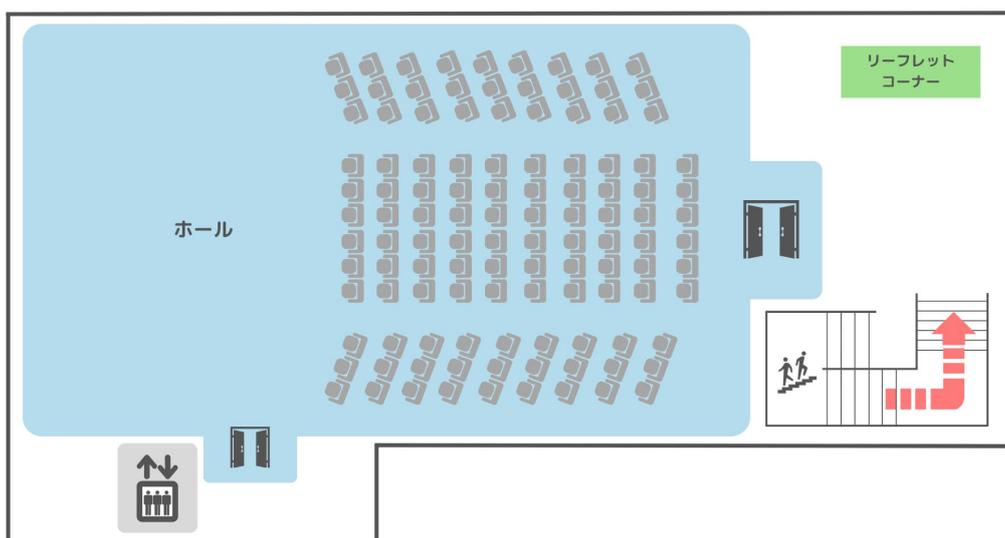
<https://maps.app.goo.gl/bmX5tbrhRHLFBrfE8>

会場案内

◇ 記念ホール1階 ポスター・プロダクトエキシビション



◇ 記念ホール2階 口頭発表・プロダクトレビュー



プログラム

【第1日目 8月23日(土)】

12:00～12:20 開会式・実行委員長挨拶・幹事会挨拶・オリエンテーション

12:30～14:00 口頭発表A(O-01～04)：研究支援・専門性の発揮
モデレーター 下山 朋幸(国立精神・神経医療研究センター図書館)
タイムキーパー 堀口 貴恵子(名寄市立大学図書館)

O-01 教員選書の効率化を目的とした生成AIによる授業に関連する新刊図書抽出の試みと実態調査

山田 奈々(青森県立保健大学附属図書館、放送大学大学院文化科学研究科情報学プログラム)、赤石 知香(青森県立保健大学附属図書館)、川内 規会(青森県立保健大学健康科学部健康科学総合教育部門)、辻 靖彦(放送大学大学院文化科学研究科情報学プログラム)

O-02 Difyで自作したレファレンスチャットボットを用いた文章生成AIの性能比較ー生成AIは図書館サービスに使えるか？ー

橋本 郷史(東邦大学医学メディアセンター 大橋病院図書室)

O-03 ペルソナ法を活用した検索ガイドの作成

古谷 和俊(東京都済生会中央病院)、深谷 里子(埼玉県済生会加須病院)、石井 恵(群馬県済生会前橋病院)、吉原 理恵(大阪府済生会中津病院)、番場 絵里子(水戸済生会総合病院)、齋藤 瞳(済生会新潟病院)、済生会図書室連絡会検索ガイド作成グループ

O-04 Evidence synthesisにおける図書館員の役割

眞喜志 まり(慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 HTA 公的分析研究室)

14:00～14:30 プロダクトレビューA(E-01～03)

14:30～15:30 ポスターセッション待機時間

15:30～17:00 口頭発表B(O-05～08)：公共サービス・社会的活動
モデレーター 奥出 麻里(千葉県がんセンター 患者図書室にとな文庫)
タイムキーパー 伊藤 嘉奈子(北海道立図書館)

O-05 地方におけるMIS開催の波及効果ー高知県内図書館員による情報交換会の実践と連携事例ー

諏訪 有香(高知学園大学高知学園短期大学図書館)、依光 朋子(高知リハビリテーション専門職大学図書館)

O-06 資料展示会見学報告記録を書くことー『医学図書館』誌オン・ザ・スポットへの投稿振り返りー

菅 修一（花園大学非常勤講師）

O-07 京都府立図書館におけるがんギフトの設置と健康講座の開始について

山下 ユミ（京都府立図書館）、神山 貴子（京都府立図書館）、奥野 吉宏（京都府立図書館）

O-08 ビジネス支援型の公共図書館が提供する医療情報

草階 彩香（札幌市図書・情報館）

17:00～17:30 プロダクトレビューB（E-04～06）

18:30～20:30 懇親会

【第2日目 8月24日（日）】

9:00～9:20 受付・グッズ引渡（2日目からの参加者のみ）

9:20～9:30 （口演会場内）オリエンテーション

9:30～9:55 プロダクトレビューC（E-07～09）

10:00～11:30 口頭発表C（O-09～11）：分析・調査・データマネジメント
モデレーター 田村 峻一（滋賀医科大学附属図書館）
タイムキーパー 田中 愛子（旭川医科大学附属図書館）

O-09 コロナ禍における学術文献の計量的分析ー流行期から5類感染症への移行を経てー

城山 泰彦（順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター）

O-10 東邦大学メディアセンターの研究データ管理に関する取り組み

大谷 裕（東邦大学医学メディアセンター）、柴田 大輔（東邦大学医学メディアセンター）、渡辺 爽（東邦大学医学メディアセンター）

O-11 国内学協会誌の著作権に関する記述調査ー投稿規定、著作権規定等の文書よりー

前田 郁子（大阪大学）

12:30～13:30 ポスターセッション待機時間

13:30～14:00 プロダクトレビューD（E-10～12）

14:00～14:30 閉会式・実行委員長挨拶・幹事会挨拶・写真撮影

【両日共通】

ポスターセッション

P-01 北海道病院ライブラリー研究会の取り組み：持続可能な活動の模索

藤本 衣代（手稲溪仁会病院）、岸上 友紀（日鋼記念病院）、工藤 女恵（天使病院）、大友 理佐子（札幌保健医療大学）、蓮實 えり子（東札幌病院）、堀江 洋一（函館中央病院）、勇 まゆみ（釧路孝仁会記念病院）宮津 志津子、福井 堅一、北海道病院ライブラリー研究会

P-02 日本で出版された診療ガイドラインの文献検索の状況

阿部 信一（東京慈恵会医科大学学術情報センター）

P-03 闘病記文庫の分類と配架の取り組み－医学生が利用しやすい本棚を目指して－

島田 祐衣（奈良県立医科大学附属図書館）

P-04 文献データベースにおける医学ジャーナルの収録状況－LANCET、NEJM、JAMA のMEDLINE、Embase、Scopus、Web of Science、CAplus、Dimensions、JSTPlus での収録を見る－

廣谷 映子（一般社団法人 情報科学技術協会 OUG ライフサイエンス分科会）

P-05 ILL 依頼の却下およびキャンセルの分析－滋賀医科大学の事例－

八木澤 ちひろ（滋賀医科大学附属図書館）

P-06 旭川医科大学図書館における学生や地域に根差した地道な取り組み

磯本 善男（旭川医科大学図書館）、田中 愛子（旭川医科大学）、糸林 真優子（旭川医科大学）

プロダクトエキシビジョン 展示＋プロダクトレビュー（発表順）

E-01 NPO 医学中央雑誌刊行会

E-02 丸善雄松堂株式会社

E-03 株式会社メテオ

E-04 株式会社サンメディア

E-05 株式会社 医学書院

E-06 iJapan 株式会社

E-07 ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社

E-08 ユサコ株式会社

E-09 株式会社ブレインテック

E-10 EBSCO Information Services Japan 株式会社

E-11 日本事務器株式会社

E-12 株式会社ウォルターズ・クルワー・ジャパン

札幌医科大学附属総合情報センターの自由見学

8月23日（土）11:00～12:00、13:30～14:30

8月24日（日）11:30～13:30

タイムテーブル

MIS40 タイムテーブル 会場：札幌医科大学記念ホール

第1日目 2025年8月23日（土）

	ロビー	ホール	会議室A	会議室B	札幌医科大学 附属総合情報センター見学
11:00	受付・グッズ引渡		ポスター セッション 企業展示	クローク 大会事務局	自由見学 (入口に職員待機)
12:00		開会式			
13:00	口頭発表A				
14:00	プロダクトレビューA				
15:00		ポスター 待機時間			
16:00		口頭発表B	ポスター セッション 企業展示		自由見学 (入口に職員待機)
17:00		プロダクトレビューB			
18:00	懇親会会場へ移動 (地下鉄南北線「すすきの」駅徒歩1分、中央区南4条西4丁目すすらんビル8階)				
	18:30-20:30 懇親会：おたる別邸 宴会処				

第2日目 2025年8月24日（日）

	ロビー	ホール	会議室A	会議室B	札幌医科大学 附属総合情報センター見学
9:00	受付・グッズ引渡	オリエンテーション	ポスター セッション 企業展示	クローク 大会事務局	
		プロダクトレビューC			
10:00		口頭発表C			
11:00					
12:00	昼食 お弁当配付				ポスター 待機時間
13:00					
		プロダクトレビューD	ポスターセッ ション企業展示		
14:00		閉会式・写真撮影			
	～MIS41でまたお会いしましょう 気をつけてお帰りください～				

口頭発表 A
研究支援・専門性の発揮



教員選書の効率化を目的とした生成 AI による 授業に関連する図書抽出の試みと実態調査

山田奈々^{1),3)}、赤石知香¹⁾、川内規会²⁾、辻靖彦³⁾

¹⁾青森県立保健大学附属図書館、²⁾青森県立保健大学健康科学部健康科学総合教育部門、

³⁾放送大学大学院文化科学研究科情報学プログラム

1 背景・目的

青森県立保健大学(以下、「本学」)は医療保健福祉系の小規模大学である。図書館用の図書・視聴覚資料は、令和5年度から教員が選定している。しかし選定を行う教員が少ないことから、新刊購入図書において授業と関連のある図書が十分に選ばれない可能性が考えられ、最終的に学生の学びに影響が出ることが危惧される。そこで本研究では、授業と関連のある新刊図書の確保と教員及び図書館員の選定作業の負担軽減を目的とし、生成 AI を用いて授業シラバスと関連のある図書情報の抽出を試みた。また、並行して教員の選書作業の実態の把握および選書方法の改善のためのアンケート調査を行った。

2 方法

(1) シラバスに基づいた生成 AI による図書抽出

令和6年9月から10月にかけて、本学シラバス1科目及び日本医書出版協会書誌データのうち本学専門分野の30件に絞ったリストを ChatGPT4o に読み込ませ、シラバスに関連する図書情報を抽出させた。

(2) 全教員を対象とした Web アンケート調査

選書作業の実態を把握し選書方法を改善するために、令和7年3月に本学全教員105名を対象とした質問紙調査を実施した。主な調査項目を表1に示す。

3 結果

(1) シラバスに基づいた生成 AI による図書抽出

生成 AI が図書の抽出に用いた語句には、シラバスに記載されていない語句単語が含まれていた(表2)。上記の語句を用いて抽出した図書数は、同じ語句を用いて手作業で抽出した場合と比べて少なかった(表3)。これらの結果から、生成 AI はシラバス内の語句と書誌データ内の語句の一致による機械的な抽出を行っていないと考えられる。

(2) 全教員を対象とした Web アンケート調査

回収率は82.9%(87名)、令和5年度以降の選書経験がある教員は46%(40名)と半数弱であった。授業関連資料の形態(複数選択可)については「図書(冊子)」の回答が最多で63名であった。

表 1. 主な調査項目

項目内容
・選書経験の有無とその理由
・選定を行う際に参考とする項目
・現行の選書方法の改善点または要望、
・選書されない分野があった場合の対応
・授業以外の図書館で購入すべき分野
・授業に関連する資料(授業で使用する資料または授業に関連して紹介する資料)の形態
・授業に関連する資料の情報源

表 2. 語句の比較

生成AIの抽出語句	シラバスの語句
理学療法	理学療法学、理学療法、理学療法士
リハビリ	リハビリテーション
運動学	運動器疾患
神経	神経疾患
解剖学	なし
筋肉	なし

表 3. 抽出結果の比較

生成AIの抽出語句	生成AIの抽出冊数	手作業による冊数
理学療法	3	3
解剖学	2	3
リハビリ	4	7
運動学	1	2
神経	7	15
筋肉	0	2

Dify で自作したレファレンスチャットボット を用いた文章生成 AI の性能比較

ー生成 AI は図書館サービスに使えるか？ー

橋本 郷史

東邦大学医学メディアセンター 大橋病院図書室

【目的】多くの文章生成 AI(以下, LM(Language Model:言語モデル))は, 図書館のサービス案内のような簡単な受け答えをこなす程度の能力をすでに有している。LM の応答はしばしば嘘をつくことが問題視されるが, RAG という情報参照技術を用いれば, 各機関の情報に特化した嘘をつかない応答をさせることが比較的簡単に可能である。

しかし実際に実用することを考えた際に, RAG にどの程度の精度があるのか, またどの程度の規模・性能の LM であれば実用に耐えうるのかは不明である。そこで, これらを確認するために, 自機関のサービス情報を学習させたチャットボットを作成し, パラメータ数等の異なる複数の LM を応答に用いて, その性能の比較を行うこととした。

【方法】チャットボットは AI ツール開発基盤「Dify」¹⁾を用いて作成した。学習させる参照情報として, 東邦大学医学メディアセンターの, 研究費での資料購入に関する説明ページ²⁾を取り込んだ。

RAG のための Embedding Model として「text-embedding-3-large / OpenAI」³⁾と「snowflake-arctic-embed2 / snowflake」⁴⁾の 2 種類を用いた。応答用の LM には, 「GPT 4o-mini / OpenAI」⁵⁾と, 「Gemma3 / Google」⁶⁾の 27B,12B,4B,1B の各モデルの計 5 種類を使用した。OpenAI 社のモデルは API 経由で使用し, snowflake と Gemma3 はローカルのパソコン上で動作させた。応答用 LM は全て非推論モードで使用した。

参照情報を各 Embedding Model で取り込み, 応答用の各 LM が参照情報に基づいて応答できるかどうかをテストした。” 応答できるかどうか” は, 「質問に答えられるか」「嘘をつかないか」「関係ないことを答えないか」の 3 つの観点で評価した。各観点に対応する質問を各 Embedding Model と各応答モデルの組み合わせごとに 10 回ずつ行い, その応答内容を評価した。

【結果・考察】結果や考察については講演内で述べる。

[参考情報] ※all accessed 2025-May 12

- 1) [LangGenious. dify. GitHub](#) [internet].
- 2) [研究費購入資料について. 東邦大学メディアセンター](#) [internet].
- 3) [OpenAI. text-embedding-3-large. OpenAI Platform](#) [internet].
- 4) [Snowflake. snowflake-arctic-embed-1-v2.0. Hugging Face](#) [internet].
- 5) [OpenAI. GPT-4o mini](#) [internet].
- 6) [Google. Gemma3 モデルの概要](#) [internet].

ペルソナ法を活用した検索ガイドの作成

済生会図書室連絡会 検索ガイド作成グループ

(古谷和俊¹⁾、深谷里子²⁾、石井恵³⁾、吉原理恵⁴⁾、番場絵里子⁵⁾、齋藤瞳⁶⁾)

¹⁾ 東京都済生会中央病院、²⁾ 埼玉県済生会加須病院、³⁾ 群馬県済生会前橋病院、
⁴⁾ 大阪府済生会中津病院、⁵⁾ 水戸済生会総合病院、⁶⁾ 済生会新潟病院)

済生会図書室連絡会（以下 当会）では、2015年度に「診療に活かす文献ガイド」としてPubMed 文献検索ポケットガイドを作成した。

この度、ワーキンググループを結成し、①医中誌 Web 版の検索ガイドを新たに作成、②PubMed 検索ガイドの改定を行うこととした。

今回、①医中誌 Web 版作成にあたり、ユーザーの実際の利用シーンをより効果的に反映させるため、ペルソナ (Persona) と呼ばれる架空の利用者像を設定し、その利用者に「なにを」「どのように」説明するかを想定しながら作成した。

本発表では、作成した検索ガイドとともに、作成する過程でペルソナ法をどのように活用したか、また、ワーキンググループでの議論やプロセスも併せて紹介する。

◆医中誌 web 検索ガイド：想定する利用者【済生なでしこさん】

- ・看護師（専門学校卒）
- ・新卒で入職 2～3 年目
- ・専門学校の図書室では図書の貸出はしていたけど文献検索の経験なし
- ・事例研究で先行研究を調べてこいと言われたが何それ？状態
- ・図書と雑誌の区別も曖昧
- ・月刊誌（なんとかナーシングのような）の存在もよく知らない
- ・医中誌 Web、使ったことがありません
- ・論文種類ってなんでしょう？
- ・図書室も入職時のオリエンテーション以来…

済生会図書室連絡会ウェブサイト <https://lib-saiseikai.jimdoweb.com/>



Evidence synthesis における図書館員の役割

眞喜志まり

慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学教室 HTA 公的分析研究室

Evidence synthesis (以下、ES)レビュー研究と支援はヘルスサイエンス分野において長年にわたり中心的な役割を担ってきたが、他の分野においても急速に普及している研究方法である。発表者は数年前まで大学の図書館で司書として働いていた。業務の中で、卒業研究や修論・博士論文執筆のための文献探し、学習・レポート作成のための参考資料の探し方(一般的にレファレンスと呼んでいる)について相談を受けたりすることはもちろん、システマティックレビュー(以下、SR)やスコーピングレビュー(以下、ScR)を実施するための文献検索や2次スクリーニングや分析に使用する為のフルテキスト入手をサポートさせていただく機会が増えてきたと感じていた。海外の大学図書館ではSRを含めたレビュー実施のための学習ガイドが図書館のサイトで提供されていたり、検索サポートが業務として行われていたりするが(1-3)、国内ではこのようなサービスを提供している図書館は少ない印象がある。しかし、今後増えていくことが期待される(4)。また、図書館員が系統的レビューに関与することで、検索方法と報告の質が向上することが実証されている。ESに参加し研究者と協働できることもこれから図書館員として働く中で自身の強みとなると考えている。

本発表ではヘルスサイエンス分野はもちろん他分野を担当する図書館員も、さまざまな環境や文脈でES業務に携わる際の参考となるよう、ESの過程において、図書館員またはInformation Specialist/Information Consultantが研究者とどのように協働できるか紹介したい。また、私たち自身も、頑健なエビデンスとして活用できる質の高いレビューの実施に貢献できるよう、日々研鑽を重ねるためのマインドを一緒に考える機会としたい。

1. libraries Tu. Evidence Synthesis and Systematic Reviews 2024 [cited 2024 Oct. 18th]. Available from: <https://guides.temple.edu/systematicreviews#s-lg-box-30842932>.
2. library Cu. A Guide to Evidence Synthesis: Cornell University Library Evidence Synthesis Service 2024. Available from: <https://guides.library.cornell.edu/evidence-synthesis>.
3. library UoM. Evidence Syntheses (Scoping, systematic, & other types of reviews) 2024 [cited 2024 Oct. 18tg]. Available from: <https://guides.lib.umich.edu/sysreviews>.
4. 川村 路代, 河野 由香里. 北海道大学附属図書館「文献検索相談・代行サービス」実践報告. 医学図書館 = Journal of the Japan Medical Libraries Association. 2022;69(3):160-4.

口頭発表 B
公共サービス・社会的活動



地方における MIS 開催の波及効果

－高知県内図書館員による情報交換会の実践と連携事例－

諏訪有香¹⁾、依光朋子²⁾

¹⁾高知学園大学高知学園短期大学図書館、²⁾高知リハビリテーション専門職大学図書館

第 38 回医学情報サービス研究大会 (MIS38) を契機として、高知県内の医学図書館員による情報交換会が年に 2 回、継続的に開催されている。本取り組みは、参加者が飲食を交えながら自由に話題を提供し合う「井戸端会議」形式を採用しており、自然な会話の中で業務上の課題や工夫、研修会・勉強会に関する情報などを共有している。

この「井戸端会議」的情報交換会は、形式張らない雰囲気の中での意見交換という点が特徴である。参加者は毎回少しずつ異なり、また参加人数も限られているものの、MIS を契機としたネットワーク形成の一例として、地方における MIS 開催の意義とその波及効果を示す事例となり得る。

実際に、MIS38 の実行委員を経験したことをきっかけに、これまで交流のなかった近隣の図書館同士で新たな連携が生まれている。たとえば、高知リハビリテーション専門職大学図書館と土佐市立市民図書館では、特定のテーマに基づいた図書の交換展示を実施し、地域住民への情報提供の幅を広げている。また、高知医療センター図書室と高知県立大学附属池図書館では、資料の相互利用が始まり、県立大学の学生や教職員が図書館を通じて医療センターの資料を活用するなど、実務に直結する連携が実現している。

これらの連携は、大学図書館と公共図書館、大学図書館と病院図書室といった館種を越えた交流であり、これまでにない新たな協力関係の構築につながっている。

高知大学が取り組むオープンアクセス(OA)加速化事業に関するシンポジウムの情報も、図書館ネットワークを通じて高知県内の大学に広く共有され、研究支援の観点からも図書館の存在感が高まっている。

他部署からも図書館が情報のハブとして頼りにされる場面が見られるようになってきている。たとえば、高知リハビリテーション専門職大学図書館では、教務担当の職員から、電子教科書の導入状況について、高知大学や高知県立大学の事例を共有してほしいという相談が寄せられた。図書館同士のつながりが、こうした学内の情報ニーズに応える基盤となりつつあることも、本取り組みの重要な成果である。

本発表では、こうした情報交換会の運営方法や具体的な連携事例を紹介し、地方における図書館員同士の連携強化の可能性について考察する。

参考文献：

諏訪有香・濱田美晴. 第 38 回医学情報サービス研究大会 (MIS38) 開催報告 - ハイブリッド方式で開催して -. 薬学図書館, 69(1), 31-37, 2024-04-30

諏訪有香. 第 38 回医学情報サービス研究大会 (MIS38) 開催報告. 医学図書館, 71(1), 27-34, 2024-03-29

資料展示会見学報告記録を書くこと

ー『医学図書館』誌オン・ザ・スポットへの投稿振り返りー

菅 修一

花園大学非常勤講師

発表者は『医学図書館』誌に多くの資料展示会報告記録を投稿している。本来、発表者は資料展示会を企画することに関心があり、大阪教育大学附属図書館勤務時の教科書展（1996, 1997年）、京都教育大学附属図書館勤務時の「戦友」の作者・真下飛泉に関する資料展示会（2005年）、滋賀医科大学附属図書館勤務時の「湖国の医史」展（2008年）などを企画した。職場の同僚の皆さんの協力を得ての作業、手作り図録冊子の作成、見学者への対応、を通じ、人との交流が広がることが魅力となったからであった。

その後、図書館実務の場から離れ、資料展示会を企画するチャンスを失ってしまった。ただ、縁あって『医学図書館』誌の編集委員となり、原稿を書くことを通じて資料展示会にアプローチしてみようと考えた。博物館、公文書館、時には図書館でも医学史関係の資料展示会は思いのほか開催されている。医学史関係の資料展示会情報を新聞紙面の展示会情報をチェックやインターネット上での検索により探し出し、資料展示会担当者にコンタクトを取った上で取材し原稿を作成、作成した原稿を資料展示会担当者の点検を受けたいうで投稿している。

発表者が見学する展示会は地味なものが多く図録冊子が刊行されることは少ない。展示会場の解説掲示や展示資料につけられているキャプションを読むことで展示の趣旨や展示資料の詳細を知ることになる。知らなかった事実、知らなかった資料の存在を知らされることも多い。ただし、残念ながら資料展示会が終われば資料展示は撤去されて消えてしまう。

資料展示会担当者への取材により展示資料への理解が深まる。加えて担当者から参考にした資料や参考になるウェブサイトについての教示を受けることも多い。展示資料だけでなく、展示を理解するために有用な資料の存在を知ることが出来るのである。

図録冊子が刊行されない地味な資料展示会は記録に残さなければ、振り返る機会はほぼない。多くの資料の存在を示してくれる展示会があったことの記録を『医学図書館』誌に読み物として記録しておくことは資料の情報を記録することである。

展示会情報を探す手段が新聞催事情報チェック、インターネット上の検索のため、把握漏れもある。皆さんの地元で開催される医学史関係の資料展示会があれば、その情報を教えていただきたい（発表者のメールアドレス：ssugachi@yahoo.co.jp）。また、発表者も高齢者になり、手弁当の作業になるが記録することを引き継いでくれる方が現われることを望んでいる。（以前の職場の同僚や発表者の見学報告に感想をくださった方と共に取材し、『医学図書館』誌に投稿したケース、数例あり。）

京都府立図書館における がんギフトの設置と健康講座の開始について

山下 ユミ、神山 貴子、奥野 吉宏
京都府立図書館

背景と目的

公共図書館では課題解決型サービスが全国的に拡充してきたが、京都府立図書館での医学・健康分野の取組は限定的である。京都府立図書館は 2018 年に『がん情報ギフト』を導入し、2024 年から市民向け健康講座を開始した。本報告では導入プロセスと利用実態を報告する。

方法

2018 年、がんの冊子 47 種を情報提供コーナーへ配架した。2024 年に一部冊子を医学分野の開架書架へ移設し、可視性を高めた。また、2024 年に全 4 回（各 90 分、定員 20 名）の健康講座を開催し、がん経験者、看護師、薬剤師、がん相談員の計 4 名が登壇した。終了後にアンケートを実施した。

結果

参加者 75 名中 69 名からアンケート回答を得た（回収率 92%）。満足度項目には 60 名が回答し、そのうち「満足」「やや満足」は 58 名（97%）、無記入 9 名であった。健康講座のために初めて来館した人は 9 名、参加者の年代は 50 代以上が 73%だった。講座についての情報は館内のチラシ・ポスターから得た人が 6 割を占めた。

テーマ(実施日)	日付	参加者数
第 1 回「みんなのがん教室」	2024/3/10	20
第 2 回「看護師と一緒に考える生き方と死に方」	2024/4/13	28
第 3 回「薬剤師に聞きたいくすりの話」	2024/6/16	17
第 4 回「がん相談支援センターってどんなところ？」	2024/10/6	10

考察

がん情報ギフトと連動した健康講座は、限られた予算下でも市民の情報アクセスを促進し、図書館利用の動機づけとなった。一方で、参加者の多くが館内のポスターを見て参加しており、広報の強化が課題である。2025 年度はテーマをがんに特化し、外部機関と連携した講座を継続予定である。

倫理的配慮

本調査は匿名・任意のサービス評価で、個人情報を含まないため倫理審査は不要と判断した。

ビジネス支援型の公共図書館が提供する医療情報

草階彩香

札幌市図書・情報館

札幌市図書・情報館は、札幌の中心市街地に建てられた複合施設の中にある公共図書館。「はたらくをらくにする。」というコンセプトを掲げ、メインターゲットを働く世代に据えた課題解決型図書館である。当館は従来の公共図書館とは異なり、資料の貸出を一切行っていない。それはビジネスユーザーが「今」知りたい情報を「今」知れる環境を整えるためである。取り扱う資料のジャンルは大きく【WORK（仕事に役立つ）】、【LIFE（暮らしを助ける）】、【ART（芸術に触れる）】の3つで、医療情報に関しては【WORK】【LIFE】に内包される。

●【WORK】医療ビジネス/ヘルスケアビジネス/福祉・介護ビジネス

「医療ビジネス」「ヘルスケアビジネス」と題した棚は医療従事者に向けたコーナーである。クリニックの開業や法令情報、患者獲得に向けたマーケティング手法まで、病院経営に関する本を多数所蔵するほか、実務に活用してもらえるように医師・看護師・栄養士・リハビリ専門職・公認心理師など様々な職種を対象とした専門書を揃えている。チーム医療にも役立つように「福祉・介護ビジネス」と隣接した棚の構成となっている。

また、医学文献情報データベース『医中誌 Web』を提供しており、現役看護師の利用が多くみられる。

●【LIFE】医療・健康情報

患者やその家族へ向けた情報を集めたコーナーには入門書だけではなく、診療ガイドラインをはじめとした最新治療に関する医学書も診療科目ごとに並べている。こころの健康にも焦点を当て、うつ・依存症・適応障害などの本も積極的に収集している。メンタルケア、リハビリや再発防止、治療費、治療と仕事の両立といった、病気そのものから派生して患者が抱える悩みにも寄り添うことを目指している。【LIFE】にも医学書が多いことから医療系の学生たちの自主学習にも活用されている様子が見える。

●これまでの連携事例

北海道がんセンターのがん相談支援員や、乳がんに罹患した自身の経験を生かして「大人のがん教育」を発信し続ける方などを講師に招き、がんに関するセミナーを開催。また、令和6年度から札幌市保健福祉局ウエルネス推進部と連携したイベントや展示を開催し、働く世代に向けて健康に関する情報の発信を続けている。

口頭発表 C
分析・調査・データマネジメント



コロナ禍における学術文献の計量的分析

－流行期から 5 類感染症への移行を経て－

城山泰彦 (KIYAMA Yasuhiko)

順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター

I. 背景と目的

2020 年初頭に起きたコロナ禍は、2023 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが 5 類感染症となり、ひとつの区切りを迎えた。大きく変化したライフスタイルは徐々に戻りつつあると感じるが、この期間にオンラインを通じたコミュニケーションが一気に浸透するなどの変化がみられた。第 39 回大会で「コロナ禍における学術コミュニケーションの計量的分析：国内医学系の学会と学術文献を対象として」を報告して、学会開催や学術文献の動向等を確認した。本研究は、コロナ禍以降の研究動向について計量的な分析を試み、研究活動における影響と変化を確認することを目的とした。

II. 調査方法と調査項目

医学系の学術文献を中心として、計量的な分析をおこなった。学術文献は 2017 年から 2024 年を対象に、研究評価ツール InCites Benchmarking & Analytics (InCites) と引用索引データベース Web of Science (WoS) を用いて調査した。すべての学問分野、臨床医学分野、基礎医学分野、そして COVID-19 文献が多く含まれる医学分野において、文献数・記事区分・引用・国際共著等の経時的な変化を確認した。

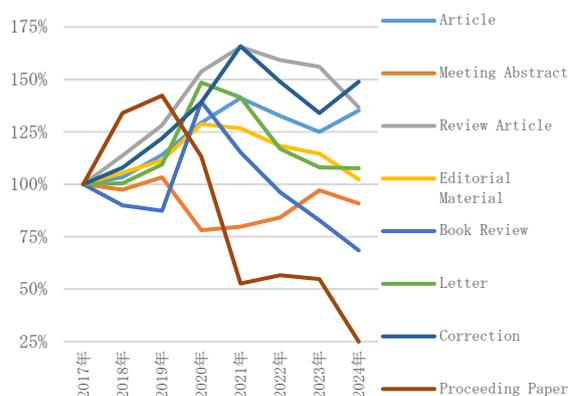
昨年調査した、日本医学会に属する 142 分科会(学会)の学術集会の開催形式について、学会ウェブサイトから 2024 年度のデータを確認して、データを補完した。

III. 結果と考察

WoS における臨床医学分野の記事区分別ごとの文献数は、2017 年の文献数を 100% とした変化は下図となった。ほとんどの記事区分が 2020 年から 2022 年に大きな影響を受けていた。減少は“Proceeding Paper”と“Book Review”で、“Meeting Abstract”は一時期の減少から回復しつつある。増加は“Correction”と“Review Article”と“Article”であり、コロナ禍時期の一時的な増加から近年は落ち着きつつある。

医学会の開催形式は対面開催に戻す傾向がみられ、規模が大きな学会ほどハイブリッド開催等の多様な形式で開催されていた。

学術情報の変化を経時的に確認することで、コロナ禍の状況を記録するとともに、医学図書館員にできることを考えてみたい。



東邦大学メディアセンターの 研究データ管理に関する取り組み

大谷裕，柴田大輔，渡辺爽
東邦大学医学メディアセンター

I. 背景

- ・内閣府の科学技術・イノベーション推進事務局『「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策』（令和6年2月，同10月改正）では，公的資金のうち令和7年度から新たに公募を行う「即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費」の受給者に対して，「査読付き学術論文」及び「論文の根拠データ」を，学術雑誌への掲載後，即時に機関リポジトリ等の情報基盤に掲載することでオープンとすることが義務付けられた(即時オープンアクセス義務化)。
- ・さらに競争的研究費のうち，科学研究費助成事業（以下，科研費）においては即時オープンアクセス義務化に先行する形で，令和6年度以降に実施した研究課題について「論文根拠データの原則公開」と「実績報告書における論文根拠データのメタデータ提出」が求められている。

II. 取り組み

- ・このような状況を受け，東邦大学（以下，本学）では2025年4月より，全学を対象とした研究統括部門，科研費を管理する法人部署，メディアセンターの3つの部署がひとつのチームとなり，研究データ管理に関する取り組みを開始した。
- ・2025年5月28日現在，東邦大学学術リポジトリ上で，70件の研究データを登録・公開している。

III. 課題

- ・公開データについて
 - ・5月中旬に本学としての科研費の「令和6年度実績（実施状況）報告書」の提出期限を迎えたことから，4月からの登録作業は一区切りを迎えた。科研費から，どの程度の論文が生産され，公開が必要な研究データがどの程度，存在するかなど母数に該当する数値が不明なことから，研究データ登録に対する評価は難しい。
 - ・教員からは，研究データ登録の申請手順がわからなかったなどの声も聞かれた。このことから独自の判断等に対応したケースも多いと思われた。
- ・非公開データについて
 - ・本学では，公開しない研究データについても，研究者個人がGakuNin RDMを用いて適切に管理するよう，方針を定めている。これについては令和7年度から開始予定であるが，GakuNin RDMの普及が課題となっている。

国内学協会誌の著作権に関する記述調査

－投稿規定，著作権規定等の文書より－

前田郁子

大阪大学

学術論文は，ジャーナルへの投稿時に著者から出版社に著作権を移譲する手続きがセットになっていることが多い。一方で近年は，学術論文の購読者以外への公開・再利用も一般的な選択肢となりつつある。また，根拠データの公開や研究データの利活用，論文著者やデータへの PID(永続的識別子)付与等も推奨されており，研究成果物の著作権やライセンス付与も多様化している。

公開(オープン化)に関するポリシーは，国レベル，資金配分機関レベル，研究機関レベルで制定されることも多いが，ジャーナル出版者によるポリシーも重要となる。とくに著作権は，著者と出版者との間で交わされるものである。本調査では，国内学協会が自機関発行ジャーナルへの投稿について，著作権およびライセンスをどのように規定しているか，学協会及びジャーナルの規定類，手続き文書等の記述から調査した。

対象とした学協会は，日本学術会議の協力学術研究団体の分野区分となる全 30 分野より，会員数上位 10 団体である(区分は複数付与が可能なため，一部重複している)。それらの学協会およびジャーナルタイトルを調査し，著作権規定，投稿規定，執筆要領，その他著作権に関する手続き文書を収集した。雑誌は和洋ともに対象とし，洋雑誌の中には大手商業学術出版社から発行されているものも含む。データ収集時期は 2022 年 1 月～2 月であるⁱ。

これらの文章から本文の記述を直接参照して著作権およびライセンス(主にクリエイティブコモンズ)に関する記述を抽出し，整理・分析を行った上，発表にて結果を報告する。

ⁱ 本調査の基礎となるデータは，「研究分野の多様性を踏まえた研究公正規範の明確化と共有」(科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム(第 3 期：令和 3～6 年度)採択課題)の一環として収集したものである。

ポスターセッション



北海道病院ライブラリー研究会の取り組み

－持続可能な活動の模索－

藤本衣代¹⁾、岸上友紀²⁾、工藤女恵³⁾、大友理佐子⁴⁾、蓮實えり子⁵⁾、堀江洋一⁶⁾、
勇まゆみ⁷⁾、宮津志津子⁸⁾、福井堅一⁹⁾

1) 手稲溪仁会病院、2) 日鋼記念病院、3) 天使病院、4) 札幌保健医療大学、5) 東札幌病院、
6) 函館中央病院、7) 釧路孝仁会記念病院、1)~9) 北海道病院ライブラリー研究会

【はじめに】

北海道病院ライブラリー研究会（以下研究会）は、北海道における病院図書室の質的向上と発展を目的として1986年会員8名でスタートし、2026年に40年を迎える。これまでの研究会活動を振り返りつつ、研究会活動が果たしてきた役割や取り組み、今後の課題について考える。

【活動内容】

研究会の主な活動は、研修会の開催、機関誌NEWS LETTERの発行、医学雑誌所蔵目録の作成、相互貸借、会員施設の現況調査、ホームページ公開などがある。研修会の開催とNEWS LETTERの発行は発足当初から続いている。ホームページについては2001年に開設され、2度のリニューアルを経て継続している。また、隔年で実施している現況調査では、会員のニーズを把握し活動内容に反映させている。研究会の運営は、運営マニュアルに基づき、役員と協力員で構成された各担当により分担して行っている。

【研究会の現状】

近年、会員の退職や異動後に後任者が不在となる施設があり、それに伴い会員数が減少している。さらに役員 of 急な異動や退職があった場合、従来通りの活動内容の継続が困難になることが予想される。この状況に対応するため、2023年7月に会員へのアンケート「北海道病院ライブラリー研究会の今後の活動について」を実施した。また、2024年11月の研修会では、「研究会の今後について」と題した総合討論を行った。さらに2024年12月には、研究会の今後の運営の参考とするため、オンライン研修やメーリングリストについて、他団体からの情報収集を行った。

【今後の課題】

研究会活動を通じて病院図書室間の連携、資料の相互利用、担当者の教育等、研究会が果たしてきた役割は大きい。しかし病院図書室を取り巻く環境は変化しており、現在の運営体制や活動の見直しが必要な時期にきている。今後は、運営の効率化や新たな活動形態の可能性を模索し、持続可能な研究会の在り方を検討していく。

日本で出版された診療ガイドラインの文献検索の状況

阿部信一

東京慈恵会医科大学学術情報センター

様々な健康関連の課題について最適な治療法等を提示する診療ガイドラインは、日本医療機能評価機構の Minds の取り組みもあって、「エビデンス」に基づいて作成されるものが増えてきた。日本医学図書館協会（JMLA）では、受託事業として診療ガイドライン作成支援のための文献検索を行っている。そのための作業チームとして、2008 年度に受託事業委員会の下に診療ガイドラインワーキンググループが設置され、2024 年度には 24 の診療ガイドライン作成のための文献検索を受託した。2025 年度のワーキンググループは、約 20 名の個人会員と 10 の機関会員から構成されている。

今回、2024 年 1 月～12 月に日本で出版された診療ガイドラインの作成方法や検索状況について調査した。丸善雄松堂の Knowledge Worker や紀伊国屋書店の Bookweb Pro、Amazon、CiNii などから 55 の診療ガイドラインが確認された。以前に行った同様の調査で確認された、2015 年 1 月～12 月の 61、2016 年 1 月～12 月の 47 の診療ガイドラインの内容とも比較した。

日本の診療ガイドラインは医学会や研究班で作成されるものが多いが、出版は商業出版社によるものが多い。最も多くの診療ガイドラインを出版しているのは金原出版で、2015 年(27)、2016 年(16)から変わらず、2024 年には 20 の診療ガイドラインを出版していた。次いで、南江堂、協和企画、診断と治療社が常に上位を占めている。また、多くの診療ガイドラインは Minds の「診療ガイドライン作成の手引き」に従って作成されていて、「手引き」が普及し始めた 2016 年当時は 68%の診療ガイドラインが「手引き」に準拠していたが、2024 年は 78%に増加していた。一方でまだ独自の方法で作成されている診療ガイドラインも少なくないことがわかった。「手引き」に準拠した診療ガイドラインのほとんどは文献検索の方法についても記載があり、2016年と同様に 2024年でもそれらのすべてで PubMed (MEDLINE) が検索されていた。

現在の JMLA の診療ガイドラインワーキンググループで国内のすべての診療ガイドラインのための文献検索を受託することは困難であり、依頼が集中する時期には受付を中止している。そのためか、各ガイドラインのシステムティックレビュー・チームや CQ 担当者が検索を行ったり、所属先の図書館などに相談しているとの記載も見られた。特に所属先の図書館による文献検索のサポートは図書館の本来業務であるとも言え、図書館職員の専門性の理解にもつながると考えられる。一方、診療ガイドライン作成のための文献検索は大量の CQ 数と検索結果の取り扱いが簡単ではない。今後の JMLA の支援事業のあり方としては、診療ガイドライン作成に特化したワークショップの開催や講演会の企画、相談窓口などを通して、各図書館のサポートを行うことが重要である。

闘病記文庫の分類と配架の取り組み

－医学生が利用しやすい本棚を目指して－

島田 祐衣

奈良県立医科大学附属図書館

【背景と目的】

奈良県立医科大学附属図書館(以下、当館)の闘病記文庫は平成 20(2008)年 3 月に開設された⁽¹⁾。当館は令和 7(2025)年 4 月に新キャンパスへ移転し、闘病記文庫は館内出入口近くに設置され、利用増加が期待されている。移転に伴って、書架見出しサインの作り替え作業が必要となった。闘病記文庫の大分類”疾病”における小分類は、闘病記文庫棚作成ガイドライン⁽²⁾(以下、ガイドライン)に沿って分類していたが、開設 17 年が経過し所蔵資料数及び小分類が増えたこともあり、当館独自の小分類を診療の専門分野に着目して検討できるのではないかと考えた。

【方法】

大分類”疾病”における小分類は、病名分類名の NDC 分類及び NLM 分類の分類番号を調査した。病名分類名は医中誌 Web の医学用語シソーラスブラウザで該当する統制語を調査に用いた。分類番号の該当がない病名分類名については、国際疾病分類や統制語の上位概念を参考に分類した。全ての大分類を対象に、総記に分類されている資料について、病名分類の付与を試みた。検討する方法として、インターネットでタイトルや著者の検索、図書館システムの NII 検索より他館の分類の調査、本文の流し読みを行った。

【結果と考察】

大分類”疾病”の病名分類一覧については、当日のポスターにて結果を表で発表する。例として、表 1 に感染症(疾病 1)の分類を表す。NLM 分類体系を基本とし、小分類にピリオドを付して病名分類番号とした。所蔵図書冊数の昇順でピリオド以下を付番した。総記から病名分類付与へ変更した資料についても、当日のポスターにて発表する。

表 1：感染症(疾病 1)の病名分類

病名分類	名	現分類	所蔵図書冊数
疾病1	感染症		
疾病1.1	エイズ	疾病8	23
疾病1.2	ハンセン病	疾病111	7
疾病1.3	結核	疾病39	4
疾病1.4	ポリオ	疾病63	1
疾病1.5	院内感染	疾病5	1

ガイドラインにて病名分類の該当がない資料が総記に分類されているケースが見受けられ、当館の闘病記文庫受入マニュアルの見直しが急がれる。今回の取り組みはこの第一歩ともなり、マニュアルを更新していく。利用者の反応や闘病記文庫の利用統計への影響に関する調査は、今後の課題としたい。

【参考文献】

- (1) 川村殉子. 奈良県立医科大学附属図書館における闘病記文庫の設置. 医学図書館. 56(2). 2009. 127-30.
- (2) 健康情報棚プロジェクト 著. 闘病記文庫 棚作成ガイドライン. 2006

文献データベースにおける医学ジャーナルの収録状況

—LANCET、NEJM、JAMA の MEDLINE、Embase、Scopus、Web of Science、CAplus、Dimensions、JSTPlus での収録を見る—

廣谷映子

一般社団法人 情報科学技術協会 OUG ライフサイエンス分科会

文献データベースを用いた調査では目的に応じて文献データベースを選択することがまず調査開始の第一歩である。例えば調査対象が海外の医学文献ならば PubMed を選択するのがスタンダードとなっているが、その理由は PubMed の収録対象誌の豊富さだけでなく、収録対象誌として選定されているジャーナルに対する信頼、そして収録されている文献データ数が多いことや年代が幅広いこと、収録期間が短いこと、医学分野に特化したインデキシングの付与、さらには誰もが無償で使えること、などであろう。

一方で、収録対象誌であればそこに掲載された記事は文献データとして文献データベースに収録されているもの…との期待のもと調査をするわけだが、しかし、果たして収録対象誌に掲載された記事が期待通りに文献データとして調査対象の文献データベースに収録されているのかは未確認である。より網羅的に漏れなく調査を進めるためには調査対象の文献データベースにどのように掲載記事が収録されているかを知ることが重要である。

そこで著名な医学ジャーナルである LANCET、New England Journal of Medicine（以下、NEJM）、Journal of American Medical Association（JAMA）の3誌を取り上げて文献データベースでの収録状況を調査することとした。調査は提供される文献データベースのサービスの安定性から商用データベースを用いることとし、MEDLINE、Embaseの2つの医学分野に特化した文献データベースのほか、LANCETとNEJMについてはジャーナルタイトル名の文献データベース、そして、Scopus、Web of Science、CAplus、Dimensions、JSTPlusとした。対象期間は出版年をオンラインジャーナルが普及し始めた2000年から2024年とし、ジャーナルはISSN（pISSNとeISSN）で検索した。

調査の結果、収録対象誌とされるジャーナルであっても文献データベースまたジャーナルごとに傾向が異なることを確認したので、その内容を報告する。

本ポスター発表は INFOPRO2024 の報告¹⁾で未発表の調査結果を加えて行うものである。

1) 情報科学技術協会 INFOSTA. “OUG ライフサイエンス分科会 発表資料／公開資料”. https://www.infosta.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/08/INFOPRO2024_OUG_LIFE_2.pdf, (参照 2025-05-31)

ILL 依頼の却下およびキャンセルの分析

－滋賀医科大学の事例－

八木澤 ちひろ

滋賀医科大学附属図書館

I. はじめに

ILL 依頼は、自機関で読めない文献を他機関から入手する手段である。依頼前に ILL 担当者は、利用者が自身でそのリクエストの文献を入手可能かチェックする。自機関に紙媒体で所蔵がある文献、電子媒体で契約のある文献、トランザクションで利用できる文献、またはオープンアクセス（以下 OA）の文献であれば、利用者は自身で入手可能である。その場合、リクエストは依頼前に却下される。また却下されずに他機関に依頼したとしても、依頼が成立せず、キャンセルとして処理される場合がある。

このような ILL の却下／キャンセルについて、とくに国内の医学図書館で調査した先行研究は少ないが、大谷による日本医科大学の調査（2013 年）がある¹⁾。しかしそれ以降、国内の ILL キャンセル事例の調査分析を行った研究は、管見の限り見当たらない。

II. 方法

本研究では、滋賀医科大学（以下本学）の 2024 年度 ILL 依頼について、却下／キャンセル理由を調査した。本学の依頼は 9 割以上文献複写で、現物貸借はごく少ないため、今回は文献複写のみ対象とした。却下／キャンセルとなった依頼について、図書館システムのコメント欄に記録した理由をテキストで抽出した。その理由を「A.電子ジャーナル（契約）」「B.電子ジャーナル（OA）※著者稿含む」「C.紙媒体所蔵」「D.トランザクション」「E.重複依頼」「F.国内所蔵なし」「G.本人希望」「H.その他」の 8 つに分類し、件数を数えた。

III. 結果

対象のリクエスト総数は 958 件であった。そのうち依頼成立は 577 件（60%）で、対して却下／キャンセルは 381 件（40%）であった。却下／キャンセルの 381 件のうち、その理由を多かった順に挙げると、B. 116 件（30%）、D. 111 件（29%）、H. 44 件（12%）、A. 40 件（10%）、C. 30 件（8%）、G. 21 件（6%）、E. 10 件（3%）、F. 9 件（2%）であった。利用者自身で入手可能な文献（理由 A～D）は、あわせて 297 件（77%）であった。

IV. 考察

先行研究と比較して、依頼が却下／キャンセルされる割合が増えている（約 20%→40%）。OA 文献を、利用者が自力で発見できないパターンが多いと考えられる。トランザクション利用が可能な文献へのリクエストも多い。こうした文献は、リンクリゾルバでオンラインアクセスが表示されないため、利用者が自力で文献にたどりつけていない可能性がある。このような文献の利用ルートについて、利用者への周知方法を検討する必要がある。

参考文献

- 1) 大谷有意. ILL リクエストキャンセル事例の検討: 日本医科大学図書館の調査結果から. 医学図書館. 2013, 60(3), p.296-303.

旭川医科大学図書館における 学生や地域に根差した地道な取組み

磯本 善男、田中 愛子、糸林 真優子
旭川医科大学図書館

1. 概要

旭川医科大学図書館は、蔵書数 15 万冊程の小規模な図書館である。入館者数も年間 10 万人程で、利用者を増やすことは恒常的な課題である。利用者に図書館を身近に感じてもらえるよう、地道な取り組みを続けている。「ブックハンティング」、「ミステリーツアー」といった、学生をターゲットにした様々な形態のイベントの開催、学内展示や他機関への出張展示、地域の医療従事者への特別利用といった取組を紹介する。

2. 取組事例

①ブックハンティング・ミニミニ本屋さん・リクエスト大会

旭川市内の書店に訪問、もしくは、図書館内に書店から取り寄せた図書を配架して学生等に選書してもらう企画。例年 2 回程度開催しており、毎回 30～50 名程度の参加、150 冊程度の購入実績がある。購入した図書はブックログ等でも公開している。

また、コロナ禍の期間、ブックハンティング・ミニミニ本屋さんの代替えとして実施したリクエスト型の選書が好評だったため、令和 4 年度からは「リクエスト大会」として定期的に開催している。

②図書館ツアー・イベント

図書館にまつわる謎を解きながら利用者に館内を回ってもらう「ミステリーツアー」等、図書館に興味を持ってもらえるようなイベントを実施している。

③学内・出張展示

図書館内で特定のテーマでの展示だけでなく、小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学との交換展示「ややや」、旭川市図書館との連携事業の一環としての出張展示等を実施している。

④地域医療従事者特別利用

道内の医療従事者の方々も旭川医科大学図書館を利用できる。申請（要在職証明／年度更新）された方は通常の開館時間外（夜間・土日等）も入館でき、図書の貸出やウオークインユーザーとして電子ジャーナル等の利用も可能である。

年間、延べ 7-80 名ほどの利用があり、仕事の後や休日などに利用できることから根強いニーズがある。



R6 年度ミニミニ本屋さんの様子

館内展示の様子

プロダクトエキシビション



NPO 医学中央雑誌刊行会
丸善雄松堂株式会社
株式会社メテオ
株式会社サンメディア
株式会社医学書院
iJapan 株式会社
ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社
ユサコ株式会社
株式会社ブレインテック
EBSCO Information Services Japan 株式会社
日本事務器株式会社
株式会社 Wolters Kluwer Japan

医中誌の取り組み、提供サービスのご紹介

寺脇一寿

NPO 医学中央雑誌刊行会 データベース事業部

本プロダクトレビューでは、医学中央雑誌刊行会の提供サービスに関する情報をご紹介します。

1. 「医中誌 Web」サービス開始から 25 周年

2025 年 4 月、「医中誌 Web」および「医中誌パーソナル Web」はサービス開始から 25 年を迎えました。ひとえに利用者の皆様、ならびに関係者の皆様の厚いご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

2000 年の提供開始以降、パソコンやインターネットの爆発的な普及とともに医中誌 Web の利用も広がっていきました。これまでに 5 回のバージョンアップを実施し、検索機能の充実のほか、図書館システムとの連携やオンラインジャーナルへのリンクなど、インターネットサービスならではの展開を進めてまいりました。また、医中誌 Web API の実装・活用により、外部サービスとシステム連携して医中誌データを提供したり、東日本大震災や COVID-19 に関連する文献情報を公開するといった取り組みを行うこともできました。

今後は、学術情報の提供媒体や提供方法の多様化に伴い、医中誌データベースの収録範囲を見直し、さらに網羅性を高めていきたいと考えております。また、学会や出版社などから提供いただくメタデータの積極的な活用や AI の導入などによりデータ作成の効率化を図り、データベースの質、速報性、検索性の向上も進めて参ります。

時代に合わせ、より便利なサービスをご提供できるよう引き続き努めてまいります。

2. 「最新看護索引 Web」リニューアル

「最新看護索引 Web」は、日本看護協会図書館の編集による、同図書館で所蔵する国内発行の看護および周辺領域の雑誌・紀要等に掲載された文献の中から看護の実践・研究・教育に関する文献情報を集めたデータベースです。

2025 年 4 月 1 日にロゴやデザインの変更を伴う大規模リニューアルを実施いたしました。テーマカラーもこれまでのピンク色から青色に変更となりました。

検索画面は現在の医中誌 Web と同じような構成となりました。レスポンス対応も行い、スマートフォンなどでも快適にご利用いただけます。また、検索履歴の表示および履歴プラス検索機能、書誌確認機能、クリップボード機能、ダウンロード機能なども新たに搭載し、医中誌 Web と共通する部分が多くなりました。

これまで認証やユーザー設定など医中誌 Web との共通化が行われておりましたが、今回のリニューアルにより、両方のサービスを利用いただいている方にはさらに便利にご利用いただけることと思います。機関での導入をぜひご検討ください。

会期中は両日ともにブース出展しております。お気軽にお立ち寄りください。

医学関連電子コンテンツのご紹介

丸善雄松堂株式会社

【医学系和書・洋書データベース】

■Maruzen eBook Library

提供可能タイトル約 16 万点以上、参加出版社数 400 社以上の国内最大級電子書籍プラットフォーム。医学・看護分野は医学雑誌バックナンバー含め約 5 万点収録。医中誌 Web と論文単位でリンク可能。PDF、EPUB リフローの他、実習に役立つ医学系動画やオーディオブックも充実しています。

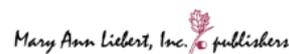


■Access Medicine 他

AccessMedicine は Harrison 最新版(22 版)をはじめとした基礎医学の学習に有用なテキストブック約 150 点、様々な機能を搭載。その他 USMLE 対策として 2024 年に販売開始した新商品、(1)First Aid Forward: 冊子版が有名な First Aid の電子版、(2) Boards & Beyond : 豊富な動画が特長。



【丸善のお勧めコアジャーナル】



■Annals of Internal Medicine/Pediatrics/MAL Journals/JAMA 及び姉妹紙

世界的権威の Ann Intern Med、小児科関連の最高権威誌 Pediatrics、Mary Ann Liebert 発行の再生医療等先端医学関連タイトル・学会誌、JAMA 及びその姉妹紙をご紹介します。

【安価にアクセス可能なアグリゲーター系商品】

■Gale Academic OneFile 医学系

全分野の外国雑誌を提供する汎用性の高いジャーナルデータベースです。医学分野のジャーナルも多数提供、総合大学だけでなく、医療系、看護系の大学にも導入されています。



【お問い合わせ】丸善雄松堂株式会社 企画開発統括部

E-mail:e-support@maruzen.co.jp

医療現場の学びを変える！簡単・短時間で深く学べる

『Medical*Online Video』

～医療動画配信サービスの新たな可能性～

原嶋 貴信

株式会社メテオ 営業部

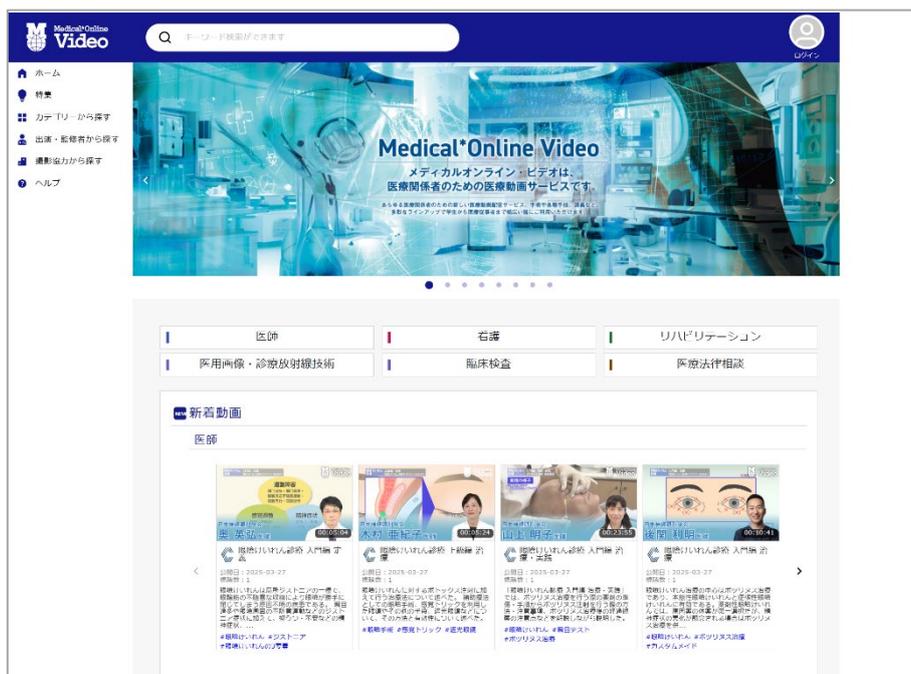
株式会社メテオは、2024年10月27日に新たな医療動画配信サービス「Medical*Online Video」をスタートしました。本サービスは、医学文献・電子書籍配信サービス「Medical*Online」の新たな進化形として、医療従事者の学びをより効率的、かつ効果的にサポートすることを目的としています。

「Medical*Online Video」は、「Medical*Online」をフリーアクセスプランで契約している大学・病院・専門学校では、追加費用なしでご利用頂けます。

※パッケージプランでご契約中の施設では、2026年3月末まで無料で利用可能です。

展示ブースでは実際に動画をご覧いただきながら、「Medical*Online Video」のサービス概要や活用方法について詳しくご案内いたします。

医療現場での教育や研修における新たな可能性を、この機会にぜひご体感ください。



サンメディアのトータル e コンテンツソリューション

内山 佳代子

株式会社サンメディア e-Port カンパニー

【電子リソース管理 (ERM) システム】 Alma Starter

新しい電子リソース管理システム



Alma Starter は 2024 年から提供が開始された電子リソース管理 (ERM) システムです。既存の図書館システム (ILS) と並行して使用でき、電子資料の契約管理やオープンアクセスタイトルの管理を効率化する機能を備えています。

【ウェブスケールディスカバリーサービス】 Summon

様々な資料をまとめて検索



Ex Libris 社のウェブスケールディスカバリーサービス「Summon」は、図書館が提供する様々な種類の学術資料を、一つの検索窓からまとめて検索することができ、効率的に信頼性の高い学術情報を検索することができます。新たに生成 AI を用いた研究サポートツール「Summon Research Assistant」が搭載されました。

【洋雑誌フルテキストデータベース】 ProQuest

世界最大級の学術情報全文データベース



ProQuest は海外の雑誌論文や書籍・レポート、新聞記事等の学術資料の全文を提供するサービスです。様々な出版者の資料を一つのプラットフォーム上で検索・閲覧することができます。この度さらにタイトルが充実した新しいパッケージ「ProQuest One Health & Nursing」が登場し、AI を搭載した「ProQuest Research Assistant」もご利用いただけます。

【次世代リモートアクセスサービス】 MyLOFT

様々な経路からのリモートアクセスを実現



機関内からであっても機関外からであっても、MyLOFT にログインさえすれば各リソースへのアクセスをすることができます。また、ユーザーカテゴリやユーザー毎の細微な利用情報を入手することにより、どの誰が利用したのかまで把握することが可能です。

【文献入手のための Web サービス】 ARROW

学術文献の入手をトータルにサポート



文献の電子配信サービス Article Direct と、図書館より入手した文献を宅配や FAX でお届けするフルサービスドキュメントデリバリーをひとつのプラットフォーム ARROW から利用できます。医中誌 Web や JDreamⅢ及び、リンクリゾルバと ARROW を連携して注文することもできます。

医学書院 オンライン製品のご案内

大谷 悠也
株式会社 医学書院

医学書院のオンライン製品、「MedicalFinder」、「今日の診療」についてご紹介します。また、医書ジェーピー社より販売委託を受けている2製品についても合わせてご紹介します。

【ジャーナル】



☆「医書.jp オールアクセス」は、2018年のリリースからキャンセルがほとんど無く、非常に多くの大学、病院でご契約いただいています。

★「MedicalFinder」は、医療系大学、専門病院で多くのご契約をいただいています。

☆導入施設では論文単価 35 円～110 円の水準となり、「コストパフォーマンスが高い」とのご評価をいただいています。

【ブック】



☆「最低契約金額」の改定と、各種コンソーシアム提案を開始した結果、2025年は多くの施設で新規ご契約をいただきました。

【診療情報データベース】



☆ベストセラー「今日の治療指針」と「治療薬マニュアル」がベースとなっているので、毎年最新の情報を閲覧いただけるサービスです。

★研修医向けのコンテンツを強化した「プレミアムプラス」も好評です。

【お問い合わせ先】

㈱医学書院 販売・PR部 EM販売課

TEL : 03-3817-5652 E-mail : em@igaku-shoin.co.jp

iJapan 社の提供する 3 つのサービス -MyLOFT/Unsub.org/Felo.ai-

iJapan 株式会社

笠間 和喜

弊社 iJapan 株式会社では、3 つのサービスをご紹介します。

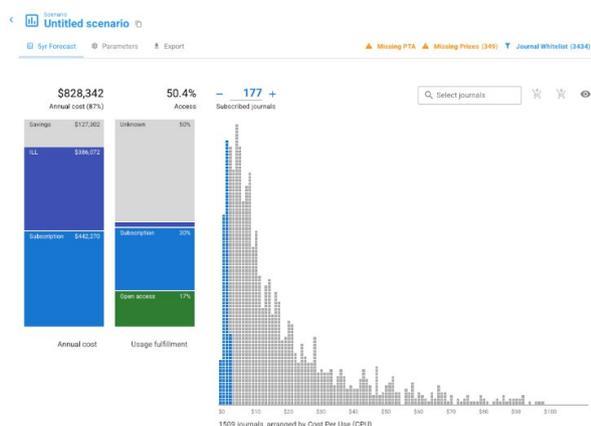
MyLOFT :

■MyLOFT は、PC では Chrome ブラウザの拡張機能、モバイルではアプリ を利用して、所属組織内外から図書館購読コンテンツへシームレスにアクセスできるリモートアクセスツールです。

■個人用のポータルに Discovery サービスやお気に入り登録や外部サイト登録などのカスタマイズが可能で、Google の検索結果から購読コンテンツにアクセスできます。

■個人及び所属のジャーナルレベルの利用統計が取得可能です。

Unsub.org:



■現在の購読コレクションから個別のタイトル購読へ移行した場合のコストや影響を明確にするシミュレーションツールです。

■利用統計データ、購読中止後購読年までアクセス可能なタイトル情報、価格情報をシステムに入力することで、各電子ジャーナルタイトルのコストパフォーマンスを測定できます。

Evidentia Learning:

■子ども虐待分野に特化した、医療従事者及び関連職種向けのコンテンツを提供します。

■子どもに関連する職種のための虐待の兆候を

理解するためのオンラインラーニング モジュールのクラウドファンディング募集中です。

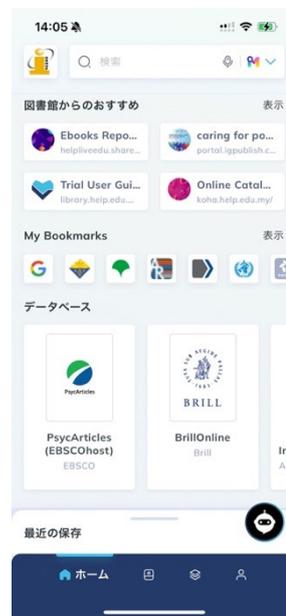
Felo.ai :

■NLP 技術を用いて質問を複数のクエリーに分割し日本語及び英語で解析し、複数の AI モデルを活用して、より正確で最新の情報を提供します。

■最小限の指示で自律的に作動する AI エージェントを提供します。

■マインドマップ、プレゼンやブログ作成機能を備えています。

以上が弊社の提供するサービスの概要です。ご興味ございましたら、ブースまでお越しください。



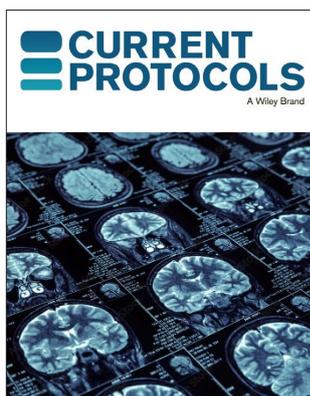
ワイリー・パブリッシング 新刊・新商品紹介

更なる情報基盤および研究環境の強化に向けて

笹倉 俊樹

ワイリー・パブリッシング・ジャパン（株）

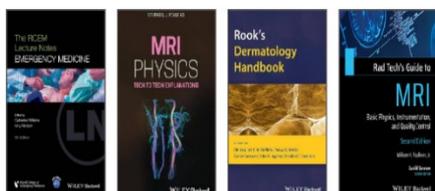
カレント・プロトコルに新たなモジュールが追加



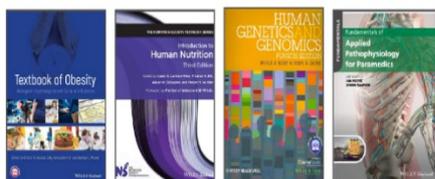
過去 20 年で、科学的イメージングは生物医学研究を支える高度な技術へと進化し、仮説検証の出発点としても活用されています。一方で、関連技術の進歩により手法は複雑化しています。Current Protocols に新たに加わった本分野「Imaging」は、これらの高度な手法を分かりやすく解説し、医療従事者が自身のラボで実践できるよう支援することを目的としています。カレント・プロトコルは、これまでも大学院や医療現場で広く活用されています。

* 無料体験も実施可能！

Advanced eText: Medicine コレクション

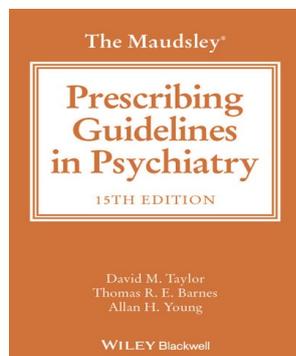


40 以上の分野をカバーする 80 以上のタイトルを取り揃えており、学生、研究者、教授陣が幅広い分野の医学研究を行えるよう、幅広い書籍へのアクセスを提供しています。



これらのタイトルは、今回初めて Wiley Online Library で買い切り商品として発売されています。

モーズレイ処方ガイドライン第 15 版—世界的に有名なリファレンスガイドの新版



『モーズレイ処方ガイドライン』の改訂版が機関向けライセンスとして登場！

向精神薬の処方に必要な最新エビデンスを収録し、研修医から経験豊富な臨床医まで幅広く活用されています。今回の改訂版では、有害作用や薬剤変更、特殊な患者群への対応も網羅し、精神疾患の薬物療法を確実に支援します。

各種商品の詳細やライセンスオプションは当社出展ブースまでお立ち寄りください！

Journalytics Medicine & Predatory Reports / Article Galaxy Scholar (AGS)

－医学図書館で役立つツールのご紹介－

佐々木陽子¹⁾、井手孝次郎²⁾
ユサコ株式会社

米国 Cabells 社による、信頼性の高い医学系学術誌と粗悪学術誌(ハゲタカジャーナル)の情報を提供するプラットフォーム「Journalytics Medicine & Predatory Reports」と、同じく米国に拠点を置くドキュメントデリバリー提供業者である Research Solutions 社が大学向けに提供する新たなサービス「Article Galaxy Scholar (AGS)」をご案内します。

[Journalytics Medicine & Predatory Reports]

研究者が研究成果を発表する雑誌の投稿先選定には、分野でのインパクト、査読・出版にかかる時間、投稿・オープンアクセス(OA)化の費用など様々な切り口での検討が必要となります。また近年の OA 誌増加に伴い、研究者から投稿に関わる費用を搾取しようとする粗悪学術誌が急増しており注意が必要です。粗悪学術誌に投稿してしまうと費用を搾取されるほか、個人・所属機関の評価にも傷がついてしまうなど多くの問題となります。

Journalytics Medicine & Predatory Reports は、信頼性の高い学術誌の情報約 9,000 誌、粗悪学術誌の情報約 20,000 誌を収録しています。雑誌の様々な評価指標や、投稿先選定に役立つ情報のほか、粗悪学術誌については、70 以上の項目を調査し問題点を掲載しています。Cabells は全分野が収録対象の「Journalytics Academic」も提供していますが、今回ご紹介する「Journalytics Medicine」は、医学と関連性の高い雑誌を収録しているのが特徴です。

[Article Galaxy Scholar (AGS)]

大学向けに開発されたプラットフォーム、Article Galaxy Scholar (以下、AGS) は図書館が導入しているリンクリゾルバーと連携し、機関で購読していない、主要な学術出版社(約 80 社) が提供するジャーナルの論文を購読誌と遜色ないスピード感で利用者に提供します。

AGS は購読に代わる手段として利用者によるスムーズな論文入手を支援する一方、図書館は管理者向けツールから利用者、出版社、ジャーナルごとに論文の購入上限数を設定することができます。毎月の購入状況から購入上限数を調整することで予算管理が可能です。

中小規模向け図書館システム「情報館」のご紹介

林 一裕、西城戸 月海
株式会社ブレインテック

中小規模向け図書館システム「情報館」は、資料データ登録、貸出返却管理、統計処理、各種帳票出力といった蔵書管理に必要な機能を備えたパッケージシステムです。

1. 業務システム

豊富なカスタマイズ機能を持ち、図書、雑誌のみならず、論文や図面など様々な資料を管理することが可能です。

2種類の分類項目が標準搭載されており、NDCと独自分類というように複数の分類記号を付与することができることから、所蔵資料のうち一部特定分野だけ割合が多くなりがちな専門図書館で多く活用されています。

「情報館 ver.10」から搭載されたレファレンス管理機能では、利用者からの日々のお問い合わせを記録することで、貸出以外で利用者の役に立っている資料の可視化や、図書館の持っている資源の価値の高さを数字に表すことができます。また、毎日の貸出数、データ登録数、レファレンス件数等任意の項目を記録できる業務日誌機能や、督促者がいる場合に通知を出すといった各種アラート設定機能など、少ないスタッフを支える便利な機能が多数搭載されています。



2. OPAC

OPAC は障がいをお持ちの方にも使いやすいよう、W3C が勧告する「WCAG (Web Content Accessibility Guidelines) 2.0」の達成基準レベル「AA」相当のアクセシビリティに対応しています。

利用者の使用デバイスに応じて、パソコン用、タブレット用、スマホ用の画面に自動で切り替えます。

また、お知らせ・開館カレンダーなどの機能を持ち、図書館のホームページとして使うこともできます。さらに、オプションのデジタル資料公開機能を追加することで、PDF 資料や画像を公開することもできます。



【お問い合わせ先】株式会社ブレインテック 営業窓口 Email : sales@braintech.co.jp

医療系機関向けサービスのご紹介

ー 多様なコンテンツ/サービスを提供し、研究・学修を支援しますー

EBSCO Information Services Japan 株式会社 営業担当

製品・サービス名	内容
 (エブスコディスカバリーサービス)	Google ライクな単一インターフェースで図書館のあらゆる資料を記事レベル・タイトルレベルで一括検索します。臨床系ツールも検索対象に含めることができ、利用者の求める情報を情報検索の習熟度に関わらずご利用いただけます。
 (ダイナメッド)	世界的評価を得ている臨床診断サポートツールです。日々の診療・治療の際に生じる疑問の解決をサポートし、最新のエビデンスが毎日更新されます。箇条書き形式の文体で、ブラウザの翻訳機能を有効にご利用いただけます。
 (ダイナエーアイ*) *英語のみ対応	DynaMed 上でお使い頂ける、生成 AI を活用した新機能です。自然言語による検索で、臨床医の皆様が現場で必要としている情報を、これまで以上に迅速に提供し、情報に基づいた意思決定をサポートします。
 (メドラインアルティメット)	薬学、看護学、歯科学、獣医学、ヘルスケアシステム、および前臨床医学など、包括的な医療情報を収録している MEDLINE のフルテキスト最上位版です。約 3,100 誌の全文情報の閲覧が可能です。
 (フルテキストファインダー)	医中誌や PubMed 等の検索結果から、ご契約の電子リソースに収録中の文献の入手方法をナビゲートします。また、契約電子リソース、オープンアクセス資料等のタイトル検索も可能です。
 (オープンアセンズ)	世界的に定評のあるリモートアクセスツール。SAML、IP 認証（プロキシ）を併用したシングルサインオンを実現し、多様なリソースにアクセス可能です。またユーザー属性に応じたアクセス制御も可能です。

〈お問合せ〉 EBSCO Information Services Japan 株式会社

電話： 03-4540-7169 （代表） | Email： jp-ebscohost@ebSCO.com

図書館システム，文献レビューアプリ，LMS のご紹介

－日本事務器（株）教育機関向け ICT サービスのご紹介－

加藤 寛子

日本事務器株式会社 営業本部文教ソリューション部

日本事務器株式会社（以下 NJC）は，大学向け及び大学図書館向けの ICT サービスを提供しております。本大会でご紹介しておりますのは以下の3つのプロダクトとなります。

1. 大学図書館情報システム「ネオシリウス・クラウド」

ネオシリウス・クラウドは，最新のクラウド技術による高い運用性と長年の経験・ノウハウに裏打ちされた大学図書館業務・サービスに適用した使いやすい機能が特徴です。運用を見据えた丁寧なヒアリングと導入提案により，何かと不安なシステム移行も十分にサポートいたします。

2. 学習支援のための文献レビューアプリ「BOOK MARRY」

BOOK MARRY は，ご所属の学生・教職員のみが閲覧・投稿できる「クローズド」な文献レビュー共有サービスです。学生にとっては，自分の大学の先輩や同級生，教員のレビューのみ参照できるため，課題に有効な資料を探す際などに，信頼のおける情報源として活用できます。効率的な文献探しのための学習支援ツールとして，ぜひお役立てください。また，他の人のレビューを読むことで，「意識していなかったが実は興味がある」分野の発見や，魅力的な感想から本に手を伸ばす機会を生むといった，読書推進やキャリア支援の効果も期待できます。

3. クラウド型学習支援システム「Pholly（フォリー）」

Pholly は「どんな人でも，いつでも，どこでも，どんな端末でも」をコンセプトに，お知らせや資料配布，実技などの動画配信，出欠管理やグループワーク，そして授業後のレポートやテストなど大学向け LMS として必要な機能をオールインワンで網羅した学習支援システムです。

低コストで導入ができ，専用のスマホアプリがあるのでいつでも気軽にアクセスできます。臨地実習中の学生とのコミュニケーションツールとしても活用されています。

いずれの製品も弊社ブースにて実際にお試しいただくことが可能です。なお，それぞれ各サービスの詳細な内容については以下の HP をご参照下さい。

■ 「ネオシリウス・クラウド」「BOOK MARRY」

<https://www.njc.co.jp/neocilius/>

■ 「Pholly」

<https://www.njc.co.jp/pholly/>

Ovid Discovery, ODS AI Summary

—MEDLINE を検索し、検索結果上位 10 件を

AI が日本語で要約！—

発表者名 諸岡成人

所属機関名 Wolters Kluwer Health Research

医師・看護師・薬剤師・コメディカルの方が PubMed 検索結果の大意を非常に短時間で把握できるのがスゴイ！ AI 要約を読んで疑問に思ったら出典元を確認、原文でも日本語訳でも読むことができます！

The screenshot displays the Ovid Discovery ODS AI Summary interface. At the top, the search query is "survival rate pneumococcal pneumonia ampicillin ceftriaxone". Below the search bar, there are options for "1級検索" and "検索". The interface includes a sidebar with navigation options like "関連文献で調べ替え" and "出版データ". The main content area shows the "トップ結果のAIサマリー" (Top Results AI Summary) for the search query. The summary is in Japanese and provides a detailed overview of the research findings, including the study design, main results, and a disclaimer. The main results section lists several key findings: ABPC is non-inferior to CTRX for 30-day mortality, CDI incidence is lower with ABPC, and early treatment with ABPC/SBT shows better outcomes. The interface also shows a list of search results with a snippet of the first result: "市中肺炎の治療のためのセフトリアキソンとアンピシリンの比較。傾向が一致したコホート研究。"

参加企業連絡先（発表順）

NPO医学中央雑誌刊行会 データベース事業部

〒168-0072 東京都杉並区高井戸東2-5-18

TEL: 03-3334-7625 E-mail: info@jamas.or.jp

丸善雄松堂株式会社 企画開発統括部

〒104-0033 東京都中央区新川1-28-23 東京ダイヤビルディング5号館10階

TEL: 03-6367-6111 FAX: 03-6367-618 E-mail: e-support@maruzen.co.jp

株式会社メテオ 営業部

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-7-3

TEL: 03-5577-587 FAX: 03-5577-587 E-mail: info@medicalonline.jp

株式会社サンメディア e-Portカンパニー

〒164-0012 東京都中野区本町3-10-3 Port91

TEL: 03-3299-1515 FAX: 03-3374-141 E-mail: e-port@sunmedia.co.jp

株式会社医学書院 販売・PR部 EM販売課

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

TEL: 03-3817-565 FAX: 03-3815-780 E-mail: em@igaku-shoin.co.jp

iJapan株式会社

〒120-0035 東京都足立区千住中居町17-20マルアイビル5F-21

TEL: 03-4400-6977 E-mail: info@igroupjapan.com

ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-4-2野村不動産西新宿ビル8階

TEL: 080-7212-56 FAX: 03-4520-905 E-mail: inst-sales.japan@wiley.com

ユサコ株式会社

〒106-0044 東京都港区東麻布2-17-12

E-mail: product@usaco.co.jp

株式会社ブレインテック 営業窓口

〒141-0031 東京都品川区西五反田8-3-16 西五反田8丁目ビル7F

TEL: 050-3662-05 FAX: 03-4330-365 E-mail: sales@braintech.co.jp

EBSCO Information Services Japan 株式会社 営業担当

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-6-2 高円寺センタービル3F

TEL: 03-4540-7169 E-mail: jp-ebsohost@ebSCO.com

日本事務器株式会社 事業戦略本部バーチャルソリューション企画部

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-12-1 住友不動産西新宿ビル6号館

TEL: 050-3000-15 FAX: 03-3372-145 E-mail: jisui-bunkyo-gr@njc.co.jp

Wolters Kluwer / Health Learning, Research and Practice

〒108-0073 東京都港区三田1-3-31 フォーキャスト三田ビル5F

TEL: 03-5427-195 FAX: 03-3451-20 E-mail: Ovid-japan@wolterskluwer.com

発表要領



口頭発表要領

【使用機器】

発表に際し、大会委員会が用意する使用機器は以下のとおりです。
プレゼンテーション資料は、以下の情報を参考にご用意ください。
下記以外に希望される機器等がございましたら事前にご相談ください。

(1) 発表用 PC

OS : Windows 11 Pro

プレゼンテーションソフトウェア : Microsoft PowerPoint (Microsoft 365 Apps)

インターネット使用可能

USB メモリ使用可能

(2) その他

プロジェクター、マイク、レーザーポインター

【事前準備】

- ・プレゼンテーション資料は 8 月 20 日(水)17:00 までに電子メールで送付してください
- ・開会式までに大会実行委員が発表用 PC にコピーして、動作を確認します
- ・配布資料がある場合は各自でご持参ください

【発表当日】

- ・念のため USB でプレゼンテーション資料をご持参ください。USB はセキュリティロックを解除しておいてください
- ・当日の差し替えをご希望の場合は、受付時に大会受付担当へお申し出ください
- ・資料の配付は、配付物コーナーをご利用ください

【発表に際して】

口頭発表は 3~4 題で 1 つのセッションを構成します。セッションがスムーズに運営されるよう、以下の手順をお守りください。

- ・発表者・モデレーター・タイムキーパーの皆様は顔合わせを実施しますので、セッション開始 10 分前に、会場前方に用意した席へお集まりください
- ・発表時間は 15 分間です。演台に立った時から計測を始めます。発表の準備、撤収は速やかにお願いいたします
- ・計測開始から 12 分目にベルが 1 回、15 分目にベルが 2 回鳴ります。2 回ベルが鳴った場合は速やかに発表をやめ、モデレーターの指示に従ってください
- ・質疑応答は 5 分間です。質問者に直接答えるのではなく、モデレーターの指示に従ってください。また、質問には正確・端的にお答えください

【終了後】

発表者が用意した配布資料等は各自お持ち帰りください。

ポスター発表要領

【会場について】

- ・ポスター発表会場は、札幌医科大学記念ホールの会議室です
- ・ポスター用のパネル1枚を準備しています
- ・ポスターのサイズは W830mm/H1640mm 以内をお願いします
- ・掲示のための備品は事務局で用意いたします

【事前準備】

- ・当日の発表者は、事前に参加者のエントリーをお願いします
- ・配布資料がある場合は各自でご持参ください

【当日準備および待機時間】

- ・8月23日(土)の受付後、会場の指定した場所へ掲示してください
- ・配布資料は、指定の場所へ並べるか、待機時間等にポスター前でお配りください
- ・ポスター発表者は、以下の時間、ポスター掲示場所で待機してください
8月23日(土) 14:30~15:30
8月24日(日) 12:30~13:30

【終了後】

- ・8月24日(日)14:30までに、ポスター等を片付けてください
- ・発表者が用意した配布資料等は各自お持ち帰りください

プロダクトレビュー要領

【使用機器】

発表に際し、大会委員会が用意する使用機器は以下のとおりです。
プレゼンテーション資料は、以下の情報を参考にご用意ください。
下記以外に希望される機器等がございましたら事前にご相談ください。

(1) 発表用 PC

OS : Windows 11 Pro

プレゼンテーションソフトウェア : Microsoft PowerPoint (Microsoft 365 Apps)

インターネット使用可能

USB メモリ使用可能

(2) その他

プロジェクター、マイク、レーザーポインター

【大会当日の準備】

- ・プレゼンテーション資料は、下記の日時で発表用 PC にコピーしていただきます
8月23日(土) 10:30~11:00

【発表に際して】

- ・プロダクトレビュー開始前の休憩時間中に、会場最前列に用意した席へお集まりください
- ・発表時間は7分間です。終了時間となったところで、次の企業に交代していただきます
- ・発表の準備、撤収は迅速にお願いいたします
- ・質疑応答の時間はございません。企業展示コーナー等で受け付けてください
- ・発表時間にすべての内容を盛り込むのではなく、展示会場へ足を運んでもらうきっかけとなるようなプレゼンテーションを実施していただけますと幸いです

【その他】

資料の配付は、各社ブースの他、配付物コーナーをご利用ください。

Learning from each other!

医学情報サービス研究大会をより充実させるために

1. “Learning from each other!” に込められた思いとは

生命科学系の情報専門家として仕事をしていくためには、必要な知識とスキルを学びあうだけでなく、大きく変化する社会状況のなかで、専門職としての役割を再定義していく努力が求められる。医学情報サービス研究大会は、その努力の成果を試すひとつの場といえる。なぜなら医学情報サービス研究大会の特徴は、年齢、所属機関、性、地域、肩書きなどの違いをこえ、学びあうことに熱意を持ち、率直に交流し、問題解決の方法を求め、そして職業人としての向上を目指す人々が集う点にあるからである。つまり、医学情報サービス研究大会が掲げる “Learning from each other!” には、「参加者の所属機関・肩書きを意識しない」、「学びあう」、「自覚的に参加する」という思いが込められている。

医学情報サービス研究大会には、毎回参加する人、久しぶりに参加する人、初めて参加する人、発表する人、発表を聞きたい人等、様々な人がいるが、“Learning from each other!” に込められた思いを理解していただければ、たとえひとりで参加したとしても、医学情報サービス研究大会で有意義で心地よい時間を共有することができる。

2. 参加の目的

医学情報サービス研究大会とは、その名の通り、研究発表の場である。したがって医学情報サービス研究大会に参加する目的は、研究発表をすることであり、研究発表を聞くこととなる。

この参加目的を達成させ、より充実感を味わうために、発表者、聴衆、モデレーターに以下のことを提案したい。

3. 発表者

発表は自分の研究成果を問う場所である。ひとりでも多くの聴衆に自分の研究を理解してもらえよう、発表の仕方を工夫しよう。

3.1. 発表に際して

(1) 発表の内容

(1) 発表の内容

- ・既発表の内容でも許容できるが、大会参加者に興味ある視点から発表しよう。
- ・持論を展開するだけでなく、データや文献等で裏付けを得て、より客観的な分析・考察をしよう。
- ・宣伝的な内容に終始しないようにしよう。

(2) 発表の形式

- ・医学情報サービス研究大会の発表では“口頭発表”と“ポスター発表”が設けられることが多い。それぞれにメリットがあり、向いている形式を選択する。

3.2. 口頭発表

(1) 研究の目的と結論を明確にしよう。

- ・研究の目的と結論を分かりやすく伝えるために、発表を組み立てよう。

(2) 研究の目的と結論に沿った説明をしよう。

- ・発表では、調べたことのすべてを説明する必要はない。研究目的と結論を理解してもらうため、必要なことのみを端的に説明しよう。
- ・問題の背景や先行研究を丁寧に説明すると、どうしても長くなりがちである。時間配分を考えて、勇気をもって割愛することも大切である。

(3) 発表時間を守ろう。

- ・発表時間は必ず発表要領で確認して、時間内に収まるように構成しよう。
- ・ベルが1回鳴ったら：まとめに入る。
- ・ベルが2回鳴ったら：いったん終了して、モデレーターの指示に従う。
- ・発表終了後に質疑応答。

<口頭発表のコツ>

準備

- ・発表要領で、用意されるパソコン環境とインターネットの有無を確認しておこう。
- ・スライドは、シンプルな画面構成を心がけよう。目的から結論に至るまで、分かりやすい文脈を考えよう。
- ・アニメーションはなくてもよい。使う場合は発表で効果的になるようにしよう。
- ・リハーサルをして、スライドを見て条件反射で説明ができるようになるろう。声を出すことも大事。同僚・家族などに聞いてもらおう。

発表

- ・緊張・不安は誰にでもある。少なくとも医学情報サービス研究大会では、怖れる必要はない。

- ・原稿を用意して、読み上げても構わない。
- ・発表姿勢がよいと、発表の印象もよくなる。
- ・時間内に 2、3 回会場を見渡して、聴衆の反応に目をやるとよい。

質疑応答

- ・質問にはシンプルに答えよう。分からないことを無理に答える必要はない。
- ・学術研究の世界では、クリティカル・シンキング（批判的思考）が一般的である。そのため、発表に対して批判的な質問をされることもある。それはあなた個人を批判しているのではないので、質問に対し真摯に回答しよう。
- ・質問を怖れない。感謝する気持ちで答えよう。

発表をより充実させるため

- ・発表内容を論文にしてみよう。
- ・発表は経験こそが上達の極意。ぜひ継続しよう。

3.3. ポスター発表

(1) ポスターで、発表内容を自由に表現しよう。

- ・発表で伝えたい、研究の目的と結論を明確にしよう。
- ・口演発表と同様に、すべてのことは伝えられない。研究の目的と結論を分かりやすく伝えるため、内容とデザインを検討しよう。

(2) 決められた大きさを守ろう。

- ・所定のパネル内に収まるように工夫しよう。

(3) 説明を明解・明確にしよう。

- ・文字を減らしてできるだけ図示して、短時間で理解してもらえる工夫をしよう。
- ・ポスターは“ぱっと見”の印象が大切。参加者に足をとめていただき、読んでもらえる構成を心がけよう。

<ポスター発表のコツ>

準備

- ・大判印刷ポスターでも、コピー用紙を複数枚貼る構成でも、どちらでも構わない。
- ・事前に完成させたポスターを持ち込むため、万が一に備えてバックアップを考えよう。（USB でデータを持参、Web mail にファイルを投稿等）修正液・サインペン・色鉛筆等があると、軽微な修正ができる。
- ・発表に必要なパネルや画鋲は、実行委員会が用意する。指定された場所・時間内に、所定の場所に掲出しよう。

発表

- ・“ポスター発表ダイジェスト”という、口頭発表の時間が設けられることがある。
- ・限られた短い時間では、すべてを説明することはできない。ポスターを見に来てもらう呼びかけに徹しよう。

質疑応答

- ・“発表者待機時間”が設定されていれば、決められた時間にポスター前に立とう。
- ・口頭発表と異なり、一対一で納得のいくまで話し合える利点がある。
- ・興味のある方だけが質疑応答に来るので、気負わず挨拶や声かけをしよう。できれば名刺交換も。質問を怖れず感謝する気持ちで、ポスターを見ながら納得いくまで議論しよう。
- ・同じ質問が繰り返される場合、根本的な問題か、単なる説明不足かもしれない。分からないことは、逆に質問してみよう。教わることは恥ずかしいことではない。

発表をより充実させるため

- ・発表内容を論文にしてみよう。
- ・ポスターで言いたかったことを、文章にして説明しよう。

4. 聴衆

質問は、発表に対する理解を深めるために行います。発表者、そして自分以外の聴衆にも分かりやすい質問を心がけよう。

(1) まずは名乗ろう。

- ・挙手して、モデレーターから指名されたら、所属先と氏名を名乗ろう。

(2) 質問は明確にしよう。

- ・質問かコメントかを最初に述べて、1回にひとつだけにしよう。
- ・質問の前に持論を展開することはせず、聞きたいことを明確に述べよう。
- ・モデレーターの指示に従って質問しよう。

(3) 興味を持ったら、質疑応答の時間以外にも、発表者に質問してみよう。

- ・休憩時間や懇親会なども、質問のチャンスとして活かそう。

5. モデレーター・タイムキーパー

モデレーターが発表者・質問者の発言を指揮することにより、発表のクオリティも変わる。発表者・質問者が独断に走らないよう、上手にコントロールしよう。

(1) セッションを把握しよう。

- ・大会抄録でセッションのテーマ、発表者名のヨミと所属、演題内容を確認しよう。
- ・セッション発表者が緊張しているか、問題を抱えているか、事前の打ち合わせを通し

て把握しておこう。

(2) 発表の時間を守ろう。

- ・セッションに設定された時間を把握しよう。
- ・タイムキーパーは、規定された時間どおりにベルを鳴らそう。ただし、規定時間内に発表が終了した場合は鳴らさない。
- ・時間内に終わらない場合は、モデレーターが一度制止して、対応を指示しよう。
- ・すぐ終わりそうなら、多少の延長を認める。
- ・終わりそうにないなら、いったん止めてもらい、継続・終了を指示する。

(3) 質問の交通整理をしよう。

- ・質問、回答はモデレーターの指示のもとで行うようにしよう。
- ・聴衆を無視しない（発表者と質問者で勝手に盛り上がらない）ようにしよう。
- ・質問者の発言が長い場合や内容の要領を得ない場合は、質問者に注意しよう。
- ・質問や回答が脱線しないよう制御して、分かりにくい場合は要約しよう。

(4) 質疑応答を活発にしよう。

- ・質問が出なかった場合、可能であれば、モデレーターから質問しよう。

6. 参考文献

- ・黒木登志夫. 知的文章とプレゼンテーション：日本語の場合、英語の場合（中公新書 2109）. 東京：中央公論新社；2011.
- ・堀口安彦. 発表が楽しくなる！研究者の劇的プレゼン術：見てくれスライド論&よってらっしゃいポスター論と聴衆の心をつかむ講演技術. 東京：羊土社；2013.
- ・渡部欣忍. あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ！：シンプルに伝える魔法のテクニック. 東京：南江堂；2014.
- ・今泉美佳. ポスター発表はチャンスの宝庫！：一歩進んだ発表のための計画・準備から当日のプレゼンまで. 東京：羊土社；2003.
- ・宮野公樹. 学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術：ポスター発表を成功に導くプレゼン手法. 東京：化学同人；2011.
- ・Thomas A. Lang. 宮崎貴久子；中山健夫訳. トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド. 東京：シナジー；2012.
- ・MIS31 名古屋大会実行委員会 『QOL” for MIS31 ～学びの質を高めるために～』 [internet] . http://mis.umin.jp/31/pdf/MIS31QOL_20140224.pdf, <http://www.slideshare.net/satomikojima750/mis31-qol-20140224-34934408> [accessed 2022-06-04]

2023年4月

医学情報サービス研究会幹事会

実行委員紹介



副実行委員長：松本 ゆかり（札幌医科大学附属総合情報センター）

MIS との出会いは、2021 年、コロナ禍で大会が開けない期間にオンラインで開催された講演会「研究者を欺くハゲタカビジネスの現況」での事例発表でした。今回、札幌で MIS40 を開催する運びとなり、皆さまをお迎えできることをうれしく思います。

北海道に来て食べてほしいものは、ソフトクリームです（シメパフェもいいですね！）。牛乳の味がしっかりするのが特徴で、JR 札幌駅のどさんこプラザでは、ミニサイズがあって手軽に楽しめます。滞在中に何個食べられるか、お腹と相談してご計画ください。

事務局長：武田 理香子

「ようこそ MIS40 へ！」札幌での開催は第 3 回（1986）、第 17 回（2000）、第 32 回（2015）そして 4 回目の第 40 回（2025）の開催となりました。準備を始めるにあたって最初に MIS32 実行委員のメンバーに送ったメールから始まりました。快く受けていただけるとの返信をいただいたからこそ今日があると思っています。さらに後輩の新メンバーと共にこの日を迎えることができました。

「MIS はいつも ONE TEAM」本大会開催には参加者、参加企業の方々、MIS 幹事会、残念ながら当日参加はできませんでしたが準備に全力を注いでくれた実行委員、準備はもちろん当日の大会運営にも知恵と行動力を惜しまずに注いでくれた実行委員の力がありません。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

副事務局長：坂本 ゆう子（北海道大学）

2015 年の MIS32 札幌大会から早 10 年一。再びこの地で皆さまをお迎えできることを大変嬉しく思っています。今回の MIS40 大会は「ミニマムな開催」がテーマ。いつもの MIS とは違った点があるかもしれませんが、実りある交流の場となるよう準備してまいります。北海道らしさも添えて、シマエナガのロゴとともに皆さんをお迎えします。会場でお目にかかれるのを、心から楽しみにしています！

会計班：三浦 未央（札幌医科大学附属総合情報センター）

対面で開催される MIS に関わるのは今回が初めてです。初めてが皆さまをお迎えする立場とは思いませんでしたが、諸先輩方から温かいお声がけをいただき、いまから皆様とお会いできることが楽しみです。

夏の北海道、涼しいと言い難いこの頃ですが、暑い中で食べるスープカレーがおすすめです！今大会の会場近くにもお店があり、扇風機しかない店内で食べると汗が止まりませんが最高です。ぜひタオルをご持参のうえ、挑戦してみてください。

広報班：浅野 泉

みなさまこんにちは、2015 年の第 32 回札幌大会のご縁で、ふたたび実行委員ができて大変嬉しいです。MIS は熱く、MIS の開催時期は暑いことが決まっていますが、少しは涼しい（と思われる）札幌と北海道を満喫していただければ幸いです。また、広報の掲載にご協力くださいました各誌のみなさまに感謝申し上げます。

プログラム・抄録班：川村 路代（北海道大学）

M : Michiyo Kawamura です。

I : 医学系の図書室から学務部へと異動して約 2 年。でも「心は医学図書館員！」と、
S : 抄録班として今大会の実行委員に参加させていただきました。

4 : 40 回目の開催を迎えた MIS にて、有意義な時間をみなさんと共有できますよう

0 : ゼロから学び直すつもりで取り組んでまいります。よろしくお願いいたします！

プログラム・抄録班：佐々木 美由紀（北海道大学）

MIS32 以来、2 度目の実行委員を務めることになりました。医学系の図書担当からしばらく離れていたのですが、2023 年に久しぶりに医学系に配属となったタイミングで今回のお誘いをいただき、感謝するとともにご縁を感じています。プログラム・抄録担当として、発表者の皆様の原稿に触れるたび、“もっと学ばねば”と身が引き締まる思いです。この大会が、参加される皆様にとって実りある時間となりますように。

プログラム・抄録班：工藤 女恵（天使病院 中央図書室）

MIS32 で実行委員をしたご縁で、今回も関わることができました。当時のシーンは「面白かったなあ…ふふっ」と今でも思い出せます。Web 会議や Slack で実行委員の皆さまと親しくやりとりできたのは、MIS32 はもちろんですが、対面型が主流だった頃実際に会いできた時間の蓄積があったおかげだと思います。MIS40 にご参加された皆さまとも、貴重な 2 日間を共に過ごし実際にお話しして、新たに繋がれますとうれしいです。

参加者班：梅野 瑠子

2025 年 2 月まで旭川医科大学に勤務しておりました。図書館に配属されていた頃、当時の上司だった田中さんに声をかけていただいたのをきっかけに、思い切って実行委員として参加しました。はじめは分からないことだらけでしたが、皆さまに支えていただき、なんとかここまでたどり着くことができました。また、準備を通して図書館や情報サービスに関わる方々の情熱に触れ、多くの刺激をもらいました。貴重な機会をいただけたことに感謝いたします。札幌の夏とともに、心に残る大会となりますように。

参加者班：川端 幸枝（酪農学園大学附属図書館）

前回札幌開催の MIS32（2015 年）「Librarians, be ambitious!」から 10 年が経ちました。MIS32 に引き続き実行委員を務めることになり大変光栄です。

私が初参加した MIS17(2000 年)札幌大会のロゴはキタキツネ、今回 MIS40 のロゴはシマエナガ、どちらも北海道のシンボルです。ただ、特定の場所でしか会えないシマエナガと違い、キタキツネのほうが身近な存在であります。大学図書館も利用者により身近な存在となれるよう、この大会を通し今後を展望する機会としていただければ幸いです（キタキツネのエキノコックスのように、リテラシーの問題など利用者に近いがゆえの問題を検討する機会にもしていただければと思います）。

企業班：金谷 直樹（札幌医科大学附属総合情報センター）

MIS40 札幌大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。私は MIS 初参加となりますが、実行委員として貴重な経験をさせていただき、この場を借りて感謝申し上げます。

さて、今年の北海道は例年になく暑さが続いております。きっと皆様の MIS への熱意が届いているからかもしれません（笑）。当日は、皆様と「アツク」充実した時間を過ごせることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

企業班：小岩 重治

私は現在、すでに札幌医科大学を退職しておりますが、過去に同大学で長年勤務していた経験を活かし、今回の MIS40 大会の開催に少しでも貢献できればとの思いから、実行委員としてお手伝いさせていただいております。

2015 年に開催された第 32 回札幌大会にも関わらせていただいたご縁があり、再び札幌の地で皆さまをお迎えできることを大変うれしく思っています。短い期間ではありますが、これまでの経験を活かして、円滑な大会運営に尽力いたしますので、どうぞよろしく願います。

会場・懇親会班：池崎 康（札幌医科大学附属総合情報センター）

真夏の札幌によくこそ、お越しくございました。暑い日が続いている札幌ですが、少しでも北海道らしい涼しさを感じていただけましたら幸いです。一番楽しみにされている懇親会においても新鮮な山の幸、海の幸で北海道を満喫していただければ、と思います。懇親会場のススキノでも残飯を狙ったクマの出没が相次いでいますので、くれぐれもご用心ください。大会後、そのまま道内観光される方もいらっしゃると思いますが、クマ情報のチェックを！皆様方にとって、今年一番の思い出作りが出来ることを願っています。

会場・懇親会班：大友 理佐子（札幌保健医療大学図書館）

遠く北海道までお越しいただき、ありがとうございます。

前回の札幌大会（MIS32）では参加者の一人として勉強させていただきましたが、今回はご縁があつて実行委員を務めることになりました。まさか自分が“運営する側”に回る日が来るとは…ちょっと不思議な気持ちです。

皆さまの記憶に残る大会になるとうれしいです！

会場・懇親会班：大野 理奈子（札幌医科大学附属総合情報センター）

ようこそ夏の北海道へ。涼しいイメージのある北海道ですが、近年は本州のような暑さが続き、驚かれる方もいらっしゃるかもしれません。どうぞ熱中症には十分お気をつけいただき、MIS40 が皆さんにとって実り多い時間になりますように！

夏の北海道といえば冷たいソフトクリームも魅力ですが、私のおすすめは丸井今井大通館の GELATO LicoLico です。北海道産の素材を使った手作りジェラートを、ぜひ味わってみてください。

会場・懇親会班：藤本 衣代（手稲溪仁会病院 図書室）

前回の札幌開催から 10 年ぶりに再会した実行委員や、新しく加わった実行委員と一緒に、こうしてまた MIS の準備ができることをうれしく思います。

最近の札幌の夏は暑いと言われておりますが、開催当日はさわやかな風が吹く快適な 1 日となりますよう願っています。

参加される皆様との出会いと交流を楽しみにしています。

ウェブサイト・SNS 班／ウェブサイト担当：田中 愛子（旭川医科大学図書館）

2015 年の札幌大会に続き、今回 2 回目の参加となります。

久しぶりのホームページ作成では新しい技術について行くのが大変でしたが、試行錯誤しながらとても楽しく取り組ませていただきました。

最終的にシマエナガのかわいらしいロゴに調和したデザインに仕上げることができ、ほっとしています。

この大会をみなさまに楽しんでいただければ嬉しいです。

ウェブサイト・SNS班／SNS担当：堀口 貴恵子（名寄市立大学図書館）

さわやかな夏（多分）の北海道へ、ようこそいらっしゃいました！たくさんみなさまのご参加をいただき、ありがとうございます。私は、日本で一番北にある公立大学図書館からの参加です。赤いオーロラが出現する名寄市です。夏はヒマワリが有名です。MIS40札幌大会実行委員会は“全集中”でみなさまをお迎えいたします。札幌での2日間をどうぞ満喫して下さい。参加者全員の力で、充実した実りある大会を実現しましょう。

ロゴ・グッズ班：福原 奈緒子（札幌医科大学附属総合情報センター）

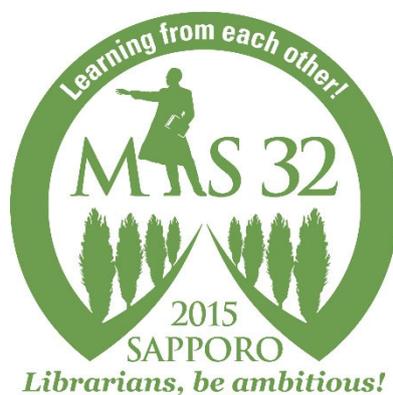
今回勤務先でMIS40が開催されると聞き、お手伝い程度の軽い気持ちで参加しました。気がついたらロゴ・グッズ担当となり、なんと自分の考えたデザインがグッズになるという貴重な経験をさせていただきました。いつも温かくポジティブなアドバイスをくださった実行委員の皆様、またSNS・広報・webフォームなどの掲載時に、ロゴの色味や雰囲気に合わせて素敵なレイアウト・アイコンを作成していただいた各ご担当者様、本当にありがとうございました！

札幌大会 歴代ロゴ

MIS17



MIS32



MIS40



❁ ロゴについて

第40回大会は札幌開催とのことで、SNSで人気に火が付き、いまや北海道を代表する存在となった激かわ動物、シマエナガをモチーフにロゴを作成しました。むぎゅっと寄り添う2羽の周りを彩るのは札幌の木、ライラックです。札幌のライラックの花は5~6月が見ごろのため大会期間中は見られないのですが、ロゴを通じて初夏の札幌の爽やかな雰囲気を感じていただけたらと思い、採用しました。またライラックといえば紫色の花が一般的ですが、今回はシマエナガのチャームポイントでもある、肩から背中にかけてのピンク色と系統を合わせるため、明るめの配色にしています。

今大会でキラキラと暑い真夏の札幌を満喫(?)していただいたら、満開のライラックが咲き誇る初夏、まっしろふわふわなシマエナガに出会えるかもしれない冬の札幌にも、ぜひ遊びに来てくださいね。



❁ ゲッズ紹介



今大会はミニマム開催ということもあり、グッズはTシャツのみの販売となりました。

シックなダークグレー系の生地にネオンピンクのロゴが映えるデザインです。

ゆるい手書き風アレンジしたロゴを背面に、もっちりとしたシマエナガはさりげなく前面にも配置しました。どの世代の方にも似合うシンプルなデザインに仕上がりましたので、女性はもちろん、男性もぜひご愛用いただけましたら幸いです！



大会関連データ



医学情報サービス研究大会の組織と運営

1984年に、東京都養育院講堂で第1回図書館情報サービス研究大会を開催しました。この大会は、病院図書室研究会、ライフ・サイエンス図書館員研究会、日本端末研究会、生物医学図書館員研究会の4団体による合同研究大会として出発し、第3回札幌大会からは、独立した研究会として運営されるようになりました。第10回大会から、大会名称を医学情報サービス研究大会に変更し、医学、薬学、歯学、看護学、保健などの生命科学関連領域の情報サービスを中心に、専門性をより深く追求してまいりました。

2020年はコロナ禍により第37回大会を開催延期とし、2021年はオンラインで「MIS2021講演会」を開催しました。2022年は延期した第37回大会を岩手からオンラインで開催、2023年は第38回大会をハイブリッド（対面とオンライン）で開催しました。これほどまでも長く続けてこられたのは、会員制度をとらず、参加される一人一人の方々の自覚と意欲によって形成されている点にあります。参加者は、所属機関を越えて自覚的に個人として集まります。会場では、それぞれが時には講師、時には受講者となって学び合います。

『Learning from each other!』精神のもと、参加者も自然と運営に関わる手作りの研究大会であることが、継続してきた最大の理由と思われる。

医学情報サービス研究大会の基本運営は幹事会で検討されていますが、実際の大会運営は、各回の実行委員会に委ねられております。実行委員会は毎回リセットされるため、大会プログラムもその回ごとに異なります。その結果、研究大会そのものが、常にリフレッシュされていることも、特徴のひとつといえます。

インターネットを介した情報技術の進歩により、社会は大きく変化しました。生命科学関連領域の教育・研究・臨床もその影響を受け様変わりしています。そのため情報サービスを提供する我々自身も、新しい知識や技術を取得・吸収しなければなりません。本研究大会は、その手助けができる場所として、今後とも発展させていくつもりです。

■医学情報サービス研究会幹事会

代表幹事

児玉 闊 (大妻女子大学教職総合支援センター)

幹事会メンバー

阿部 信一 (東京慈恵会医科大学学術情報センター)

及川 はるみ (聖路加国際大学学術情報センター図書館)

大谷 裕 (東邦大学医学メディアセンター)

小野 理奈 (東京科学大学情報部図書館利用支援課)

城山 泰彦 (順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター)

黛 崇仁 (東邦大学習志野メディアセンター)

谷澤 滋生 (特定非営利活動法人日本医学図書館協会中央事務局)

歴代代表幹事・大会長 [所属表記は代表幹事退任時]

後藤 久夫 (東京都福祉局福祉部)

井出 唯敬 (兵庫医科大学)

山崎 茂明 (愛知淑徳大学文学部図書館情報学科)

青木 仕 (順天堂大学図書館)

ご意見やご要望などございましたら、私たち幹事会メンバーまでお知らせください。

医学情報サービス研究会会則

(名称)

第1条 本会は、医学情報サービス研究会という。

(目的)

第2条 本会は、個人単位の自由な集まりを原則とし、参加者自身の研究発表による知識の共有と交流の場を提供することによって、各自の資質向上を図り、もって情報サービスの発展に貢献することを目的とする。

(活動)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる活動を行う。

- ① 年1回「医学情報サービス研究大会」を開催する。
- ② その他必要と認められる活動を行う。

(会員)

第4条 本会は、特に会員制度を有しない。

(代表、会計及び幹事)

第5条 本会に代表一人、会計一人及び幹事若干人を置く。

- 2 代表、会計及び幹事の任期は1年とし、再任は妨げない。

(定例会)

第6条 代表は、毎年1回定例幹事会を招集する。

- 2 定例幹事会は幹事の5分の4の出席をもって成立する。
- 3 定例幹事会では、本会の運営に関する重要事項を協議する。

(研究大会)

第7条 年1回「医学情報サービス研究大会」を開催する。

- 2 開催地及び大会実行委員長は定例幹事会において決定する。
- 3 研究大会開催の経費の一部は、研究会より交付し、その他は参加費で賄うものとする。
- 4 その他については、別に定める。

(経費)

第8条 本会の経費は「医学情報サービス研究大会」の参加費、及び出版物等の販売の益によって賄うものとする。

(事務)

第9条 本会の事務は、代表または幹事の属する図書館（室）において処理する。

2 本会の事務局は、東京都文京区本郷2-1-1 順天堂大学 学術メディアセンターに置く。

(雑則)

第10条 この会則に定めるもののほか、本会に関し重要な事項は別に定める。

付則

この会則は、平成2年6月16日から施行する。

この会則は、一部改正の上、平成4年12月1日から施行する。

この会則は、一部改正の上、令和5年8月1日から施行する。

医学情報サービス研究大会の足跡 (1)

■ 図書館情報サービス研究大会 (第1回～第9回)

回	開催年月日	開催地 (当時)	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気 (2日分)
1	1984年6月2日～3日	東京都板橋区	東京都養育院 講堂	165名	—	後藤久夫	山崎茂明	晴 曇
2	1985年6月1日～2日	大阪府枚方市	大阪歯科大学 5階講義室	130名	—	井出唯敬	木下順一	曇 曇
3	1986年6月28日～29日	北海道札幌市中央区	札幌医科大学 臨床教育研究棟大講堂	126名	—	野口迪子	中山純一	晴 曇
4	1987年6月6日～7日	岡山県倉敷市	川崎医科大学 現代医学教育博物館	141名	—	湊泰子	河口澄子	晴 晴
5	1988年6月25日～26日	東京都板橋区	東京都養育院 講堂	184名	—	後藤久夫	奈良岡功	雨 雨
6	1989年6月10日～11日	大阪府大阪市中央区	大阪市立労働会館 小ホール	125名	—	殿崎正明	安藤孝幸	曇一時雨 曇一時雨後晴
7	1990年6月16日～17日	静岡県浜松市	刈エー・浜松 ホール	142名	6社	熊谷健治	山口直比古	曇時々雨 晴
8	1991年6月22日～23日	鳥取県米子市	鳥取大学医学部 記念講堂	100名	5社	宍道勉	青木仕	薄雲 曇一時雨
9	1992年5月30日～31日	京都府京都市山科区	京都市東部文化会館	209名	6社	岩本博 (兼任)		雨後雲 晴時々雲

■ 医学情報サービス研究大会 (第10回以降)

回	開催年月日	開催地 (当時)	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気 (2日分)
10	1993年6月19日～20日	東京都文京区	順天堂大学 有山記念館3階講堂	203名	—	奈良岡功	青木仕	雨一時雲 曇一時雨
11	1994年6月18日～19日	岩手県盛岡市	岩手医科大学 医学部臨床講堂および図書館	142名	3社	藤原紀子	金野早苗	晴後一時薄雲 曇
12	1995年7月1日～2日	長崎県長崎市	長崎大学医学部 第1講義室	95名	6社	喜多芳明 (兼任)		曇一時晴 雨, 雷を伴う
13	1996年6月29日～30日	愛知県名古屋市中種区	愛知県がんセンター 国際医学交流センター	206名	6社	熊谷健治	安田多香子	晴一時雲 曇一時雨後晴
14	1997年6月21日～22日	東京都文京区	東京医科歯科大学 5号館講堂	240名	10社	安藤越代	石井保志	晴後曇 曇一時雨
15	1998年6月20日～21日	鳥取県倉吉市	鳥取女子短期大学 A館3階309教室	104名	5社	上田京子	野原千鶴	曇後晴 雨一時雲
16	1999年6月26日～27日	神奈川県横浜市鶴見区	鶴見大学会館 M1ホール	259名	10社	登坂善四郎 (兼任)		雨後雲 雨一時雲

医学情報サーブিস研究会の足跡 (2)

回	開催年月日	開催地 (当時)	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気 (2日分)
17	2000年7月22日～23日	北海道札幌市中央区	札幌医科大学 臨床教育研究棟大講堂	159名	10社	平紀子	中山純一	曇後時々雨 雨一時雲
18	2001年6月23日～24日	愛媛県伊予郡砥部町	愛媛県立医療技術短期大学 教育棟北棟	160名	9社	野原千鶴	吉見八重	雨 雲後晴
19	2002年7月6日～7日	静岡県静岡市	静岡県立大学短期大学部 大講義室	250名	14社	田引淳子	小浜進	雲一時晴 雲一時雨
20	2003年7月12日～13日	京都府京都市上京区	京都府立医科大学 附属図書館・合同講義棟	270名	16社	宮本小夜子	山室真知子	雨後雲 雨
21	2004年7月3日～4日	東京都渋谷区	国立リハビリテーション記念青少年総合センター センター棟セミナーホール	355名	18社	児玉閑	城山泰彦	晴 快晴
22	2005年7月9日～10日	愛知県愛知郡長久手町	愛知医科大学 本館たちばなホール	266名	18社	坪内政義	市川美智子	雨一時雲 雲
23	2006年7月15日～16日	千葉県千葉市稲毛区	千葉大学 けやき会館大ホール	322名	18社	谷澤滋生	加藤晃一	晴時々雲 雲一時雨
24	2007年8月25日～26日	長崎県長崎市	活水女子大学 4号館411教室	170名	13社	喜多芳明	森茂樹	雨後雲 晴時々雲
25	2008年7月12日～13日	茨城県つくば市	筑波大学 春日キャンパス講堂	278名	18社	小野寺夏生	岩澤まり子	晴 晴
26	2009年7月4日～5日	東京都港区	北里大学 白金キャンパス薬学部1号館1501講義室	305名	18社	宇野彰男	阿部京子	曇後一時晴 曇
27	2010年8月21日～22日	福島県いわき市	いわき明星大学 AV大講義室	161名	16社	佐々木克彦	石井美樹	晴 晴
28	2011年7月23日～24日	滋賀県大津市	滋賀県民交流センター ビアザ'淡海 大会議室	229名	18社	櫻井待子	菅修一	晴 薄雲
29	2012年8月25日～26日	東京都中央区	聖路加看護大学 アリス・C・セントジョンズビルホール	333名	17社	松本直子	及川はるみ・佐藤晋巨	晴 晴後一時雲
30	2013年7月6日～7日	沖縄県那覇市	沖縄県立看護大学 大講義室	144名	13社	大山努	古謝久美子	薄雲後晴 晴
31	2014年7月26日～27日	愛知県名古屋市中種区	愛知県がんセンター中央病院 国際医学交流センター	249名	15社	小嶋智美	市川美智子	晴一時雲 晴時々雲一時雨
32	2015年7月18日～19日	北海道札幌市北区	北海道大学 学術交流会館	189名	19社	松尾博明	武田理香子	雨時々雲 雲一時雨
33	2016年7月2日～3日	長崎県長崎市	長崎県立図書館 多目的ホール	149名	15社	喜多芳明	下田富美子	曇時々雨 雲後時々雨
34	2017年8月26日～27日	大阪府枚方市	関西医科大学 枚方キャンパス 加多乃講堂	167名	15社	山田久夫	増田徹	曇一時雨 薄曇時々晴
35	2018年8月4日～5日	東京都渋谷区	国立リハビリテーション記念青少年総合センター センター棟セミナーホール	300名	18社	大谷裕	阿部潤也	晴一時薄曇 晴
36	2019年8月11日～12日	福岡県福岡市東区	九州大学医学部 百年講堂	156名	18社	首東誠	福島真紀	薄曇時々晴 晴一時薄曇

医学情報サービス研究大会の足跡 (3)

回	開催年月日	開催地 (当時)	会場施設	参加者	企業	実行委員長	事務局長	天気 (2 日分)
-	2021年12月4日	MIS2021 講演会 (オンライン開催)	幹事会、MIS37 岩手実行委員会	189 名	—	児玉潤 (大会責任者)		東京:快晴/強風、曇後みぞれ時々雪一時雨
37	2022年7月16日～17日	岩手県紫波郡矢巾町	岩手医科大学 (オンライン開催)	183 名	11 社	川崎かおる	關山悦子	雨時々曇 雨時々曇、雷を伴う
38	2023年7月1日～2日	高知県高知市	オーテピア高知図書館 (ハイブリッド開催)	268 名	14 社	諏訪有香	依光朋子	大雨後時々曇 晴後一時曇
39	2024年7月13日～14日	愛知県名古屋市長瀬区	名古屋市立大学桜山キャンパス	167 名	16 社	小嶋智美 (兼任)		晴後曇一時雨 曇時々雨、雷を伴う
40	2025年8月23日～24日	北海道札幌市中央区	札幌医科大学 記念ホール			平紀子	武田理香子	
41	2026年							

※ 参加者数は、実行委員会の公式発表数。公式発表数を確認できない回は、参加者名簿等により推計(斜字体表記)。

天気は、気象庁「過去の気象データ検索」より、開催地都道府県気象台の天気概況(昼06:00～18:00)を記載。

MIS 41



第 41 回医学情報サービス研究大会@滋賀

“Learning from each other!”

来年 2026 年の MIS は、第 28 回(2011 年)の京滋大会以来、15 年ぶりに湖国・滋賀の地で開催となります。詳しい開催日、開催場所は後日発表します。来夏、水の恵み豊かなこの地で、皆様と新たな学びの機会を得ることを、楽しみにしております。

八木澤 ちひろ [滋賀医科大学] ほか 実行委員一同

大会主催のお願い

現在、大会を実行される主催者を募集しています。医学情報サービス研究大会は、1984年に東京都養育院講堂で開催された第1回大会以来、研究発表、生涯教育、情報交換の広場として、発展してきました。これは、大会会場の提供と実行委員会のご尽力によるものです。大会の場が存在してこそ、私たちは、ともに学びあい、率直に交流し、問題解決の方法を求め、心地よい時間を共有してこられました。大会を開催するには多大なエネルギーが必要です。しかし、実行委員会を組織して、プログラムを企画し、大会を実行することで参加者とは異なる楽しさ・達成感・充実感が得られます。みんなで作る当大会の継続と発展のために、大会主催者としての関与をご検討ください。

大会参加者は300名を超える回もありましたが、新型コロナウイルス感染症による中断が明けて以降は100～150名で推移しております。参加者が少しリセットされた感がありますが、大会の組織や実行のために必要なノウハウや人材、活動資金などは、これまでの蓄積がありますので、主催のために支援が必要な場合は、幹事会メンバーや多くの仲間が協力できます。また従来形式にとらわれず、準備の合理化や、省力化の試みを進めております。プログラムについては、特別講演や継続教育コース、特定テーマのシンポジウムなど、実行委員会の裁量で企画いただけます。一般演題はポスター発表を含め、新しい人々の申し込みを得ています。情報サービスの専門職として、企業とのパートナーシップも形成しています。新しい製品やシステムの紹介は、展示ブースだけでなく、プロダクトレビューの場で口演されています。これにより、一般演題やポスター演題は、研究発表や事例提示を中心にして、マーケティングのための商業発表と区別されることになります。

大会運営のための経費は、主に参加者の大会参加費に依存しています。企業からの展示収入も寄与していますが、主催者側と企業との適正な関係の育成に努めています。懇親会や大会グッズなどは、学びあうだけでなく、楽しめるプログラムとして位置づけています。

これまでの大会運営にあたり、財政支援のともなう他組織からの後援を受けていません。私たちは手作りであることを大切にしており、今後とも自由な個人の力を組織した大会として継続させたいと願っています。

“Learning from each other!”。大会開催についてご相談がございましたら、ぜひ幹事会メンバーへお知らせください。

*これまで開催された大会のプログラム、記念写真、開催報告一覧を、医学情報サービス研究大会ウェブサイト (<https://plaza.umin.ac.jp/mis/>) でご覧いただけます。ぜひ一度お越しください。

第 40 回医学情報サービス研究大会抄録集



発行日 2025年8月23日
発行者 平 紀子
編集 第40回医学情報サービス研究大会実行委員会
表紙デザイン 福原 奈緒子

ISSN: 1341-4739



Learning from each other!

